

令和7年度

中英研會報

第84号

東京都中学校英語教育研究会

令和7年度 ― 行 動 目 標 ―

急激に変化する時代においても、自ら課題を解決できるグローバル人材の育成のため、国は英語教育全体の飛躍的な充実を企図している。学習指導要領を踏まえ、令和2年度に小学校第3・4学年の外国語活動、第5・6学年の外国語科が開始され、令和3年4月には中学校学習指導要領が全面実施された。東京都教育委員会、各区市町村教育委員会においても様々な方略が進められ、それらが相互に有効に作用しつつある。東京都中学校英語教育研究会においては以下の行動目標の下、中学校を起点として英語教育全体の推進を図り、児童生徒、教員等の総合的な英語力を一層充実・発展させ、持続発展する社会を支える人材を育成する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。

- (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを継続的に行う。
- (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにする。集合型研修、オンライン研修や会議それぞれの利点を生かし、効果的、効率的な組織運営により教員の学びを充実させる。
- (3) 各地区の幹事と連携を密にして、多くの優れた指導力や実践を広く共有する。

2. 人材の発掘とその育成に努める。

- (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層を育成する。英語教員全体の資質向上を図る。
- (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を企画・運営する。次世代の英語教員を育成する。
- (3) 授業研究を活発に推進する。個人として、英語教員として、組織の一員としての充実を目指す。個人の目標、組織の目標を互いに協力して達成し、地域や社会にも貢献する人材を育成する。

3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。

- (1) 英語スピーキングテスト（ESAT-J）を始めとする都の事業等を東京都教育委員会と連携して推進する。東京方式少人数・習熟度別指導を充実させ、生徒の英語力を高める。
- (2) 「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」他関連機関との連携を進め、小・中・高・大学等の学びを円滑に接続できるようにする。

4. 調査・研究の充実を図る。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、組織的な調査・研究を推進する。
- (2) 英語教育に関わる基礎的事項及び発展的事項等についての調査・研究活動を行う。
- (3) 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究活動を行う。小学校における外国語活動、外国語科と関連した研究、生徒一人1台端末を活用した研究活動を行い授業改善に繋げる。
- (4) 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための取組、特に英語「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」の評価に関する取組についての調査・研究を推進する。

5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。

- (1) 様々な広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
- (2) Website等の活用を図る。さまざまな英語教育人材が情報交換する機会を設定する。
- (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化と相互協力により新たな知を生み出す。

目 次

- 対話や協働により互いの目標を達成して、
あらゆる面でのウェルビーイングを実現する……………平岡 栄一… 1
- 英語教師の役割を update する
～ AI ツール活用時代の授業において英語教師に求められること～ …津久井貴之… 2
- 東京都教育庁指導部の取組
生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための
授業力向上セミナーの実施……………義務教育指導課… 4
- 東京都教育庁グローバル人材育成部の取組
 - ①東京都における「グローバル人材育成」……………国際教育企画課… 7
 - ②中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) を活用した
学習改善のための生徒用補助資料について……………国際教育推進担当… 9
 - ③都立高校生、教員等の海外派遣研修等について……………国際交流教育課…11
 - ④都立高校生向け英語を使う機会の提供について……………国際教育事業担当…13
- 東京都教職員研修センターにおける
外国語 (英語) に関する研修について……………坊本 朋久…15
- 実践研究
 - (1)英語学芸大会 Play の部 第1位
主体的な学びを生んだ英語劇の教育的力……………藤山 太郎…18
 - (2)英語学芸大会 Speakingの部 A 第1位
「幸せ」は人を変える ……………小林 美緒…19
 - (3)研究部 令和6年度研究発表について……………高杉 達也…20
 - (4)東京教師道場で培った授業づくりの視点……………福田 真由…21
 - (5)第47回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会
第3分科会 (東京都代表発表) 報告……………今井美菜子・鈴木 美帆…22
- 各部報告
 - ・総務部報告……………板垣 繁…24
 - ・事業部報告……………稲葉 高広…25
 - ・調査部報告……………荒川 高広…26
 - ・研究部報告……………多田 翔…27
 - ・プロジェクトチーム部報告……………飯沼美千代…28
 - ・出版部報告……………今本由美子…28
- 研究大会報告
 - ・大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会 (福岡大会) ……………畠山 芽含…29
 - ・全国英語教育研究団体連合会総会 (全英連 和歌山大会) ……………難波 浩明…30
 - ・関東甲信地区中学校英語教育研究会連絡協議会 (神奈川大会) ……………板垣 繁…31
- 各地区の活動状況……………33
- 中英研事業報告……………59
- 中英研会則……………60
- 名簿……………62
- あとがき……………67

対話や協働により互いの目標を達成して、 あらゆる面でのウェルビーイングを実現する。

会 長 平岡 栄一（葛飾区立常盤中学校）

平素より、東京都中学校英語教育研究会（都中英研）の活動へのご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。多くの皆様の御指導、御助言、御尽力をいただき、おかげさまで令和7年度も充実した研究や実践が展開されました。

今年度の都中英研の活動は会議はハイブリッド、研修は対面で開催しました。主な事業では、6月に定期総会、「感謝する会」、7、8月に研究部、事業部、調査部、プロジェクトチーム（PT部）により合計5回のワークショップ（参加合計336名）、9月に「都中英研だより第79号」発行、10月に第64回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会（福岡大会・オンライン開催）、第41回事業部「授業力アップ研修会」、11月に第49回関東甲信地区中学校英語教育研究協議大会（関ブロ神奈川大会）、第75回全国英語教育研究大会（全英連和歌山大会）、2月に研究部の公開授業・研究発表で「語いと英語教育（48）」発行、PT部研究授業・冬季研修会、3月には「令和7年度 中英研会報 第84号」が発行されます。また英語学芸大会は、11月に第78回英語学芸大会（オンライン開催・各校最大13エントリーまで）、12月に第78回英語学芸大会（集合開催・各地区1エントリー）が実施されました。

都中英研の活動の一部について少し説明をします。「感謝する会」は都中英研歓送迎会が拡大したものです。多くの方々が一堂に会する機会を、もっと活用したいと思っているうちに「英語教育に尽力されているすべての方々に感謝する会」に段々と変化してきました。各地区で活躍されている英語科教諭や管理職、ESAT-Jや生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための検討委員会やセミナーでお世話になっている東京都教育委員会の皆様、研修会等で助言いただく大学関係の皆様、教科書や教材出版社の皆様、英語教育用の生成AIやコーパスを提供する英語教育クラウドサービス関連会社の皆様等、各フィールドで活躍されている皆様に互いに感謝を伝え合い、自由に語り合い、情報交換をして新たな連携や協働を模索するものです。フレッシュな20代からレジェンドまでどなたさまも大歓迎です。ぜひお越しください。

事業部の夏のワークショップでは小中高大の教員による実践発表がありました。そして、英語学芸大会のオンライン開催の部はCOVID-19により世界的にも様々な行事が中止や延期となった2020年に急遽立ち上げました。それまで72回連続で実施していた大会を何とか継続したかったためです。地区代表ではなく、学校代表が参加するもので、1校あたり最大13エントリーが可能です。スピーチの部に加え、編集が可能なパフォーマンスの部やプレイの部にも力作が並びます。録画した動画を期限までに投稿するシステムなので遠方からも参加が容易です。集合開催の部は、かめありリリオホールやたましんRISURUホール等で実施しており一般の方の参観も可能です。今年度は幕間に小学校英語教育の様子がビデオで紹介されました。

PT部は長年同一の講師に指導・助言を受けており、研修では実践発表に加え講師によるワークショップがあり人気です。研究部は語彙についての研究を進める中で、日々の授業改善へと広がってきています。2月の研究発表会には毎年150～200名近くの参加者があります。今年のは「語いと英語教育（48）」が発行されます。調査部はコミュニケーションテストの作成を継続しています。テストへの参加は担当教員がワークショップで研修を受けることが必要です。出版部からは都中英研会報84号、都中英研だより79号が今年度発行されました。2つの出版物は都中英研の年間の活動や英語教育会の動向が詳述されている貴重な資料で平成18年度以降のものはウェブサイトでも閲覧いただけます。また、さらに古い年度分も確認できました。後日ウェブ上での公開も計画されています。

都中英研は、実現したいことが協働により実現できる組織です。関係の皆様のみならずの御発展、あらゆる場面でのウェルビーイングを心より祈念いたします。

英語教師の役割をupdateする ～AIツール活用時代の授業において英語教師に求められること～

群馬大学共同教育学部英語教育講座講師 津久井 貴之

1. はじめに

一人一台端末による学びが本格的にスタートした2021年から約5年が経過した。当時配備された端末が更新時期を迎え、端末を活用した学びもその成果と課題を検証していくフェーズに入った。「小中高校の学習指導に関する調査2023」（ベネッセ教育総合研究所）によると、「今後、翻訳通訳を含めたデジタル技術の発展により英語教員の役割や指導内容は変化する」と回答した教員は9割に迫る（中：85.7%、高：84.7%）。また、「生徒は、英語の家庭学習（宿題なども含む）の中で機械翻訳を使っていると思う」（中：84.6%、高：86.5%）、「生成AI（ChatGPTなど）や機械翻訳の適切な使用方法を英語の授業で指導した方がよい」（中：72.6%、高：69.0%）という2項目への回答からは、ツール使用への危惧や適切な使用方法を指導する必要性を多くの教員が感じていることがうかがえる。AIツール（以下、本稿では生成AIおよび翻訳・添削ツールを指す）は、powerful learning toolにもなれば、使い方次第でcheating toolにもなってしまう。本稿では、AIツール活用時代の英語教師の役割に焦点を当てて論じる。先生方が「英語教師の役割」をupdateする（小さな改善や変化をもたらす）一助となれば幸いである。

2. これからの英語教師に求められる役割

その教室の生徒の様子や実態、抱えている学習上の課題に応じて、教師が果たすべき役割も異なるが、次の2つの役割は、AIツール活用がもたらす影響により今後ますます重要になると考えている。紙面の都合上、詳細な説明は割愛するが、図1・2はAIツール活用のピットフォール（陥りやすい落とし穴や指導上の課題）と合わせてまとめたものである。

① Designer：「Can-Do」・「年間指導計画」・「単元」の視点で学び、教室という学習環境をデザインする。

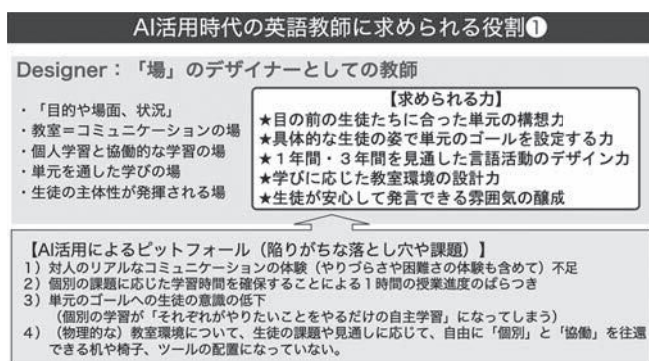


図1 AIツール活用時代の英語教師の役割①

目の前の生徒の実態や学校行事などの体験活動、身の回りの出来事への関心を把握できるのは、その学校の常勤の先生である。教科書を活用しながらぜひ独自の単元を構想し、ゴールや評価から単元の指導や活動手順を計画する「バックワードデザイン」を行ってほしい。

② Mediator：さまざまな「橋渡し」を行う。

CEFR Companion Volume (2022) では、mediation（仲介）について、複雑な概念を単純化したり具体化したりする力や、適切な質問を用いて対話をコントロールするストラテジー、テキストを要約したりわかりやすく説明したりする力などを例示している。筆者はこのmediationこそ、英語教師が教室で発揮すべき指導技術・支援であり、AI活

用時代の英語教師の重要な「橋渡し」としての役割を表していると考えている（CEFR CVを参照いただきたい）。また、もう少し広い意味でこの考え方を教室場面に援用すると、Teacher Talk（教師の授業中の英語による語りや問いかけ、フィードバック）が

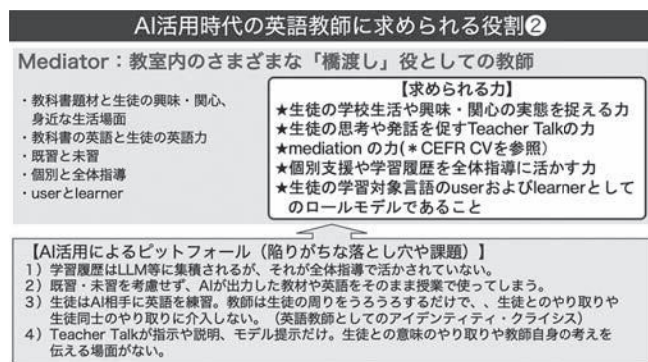


図2 AIツール活用時代の英語教師の役割②

生徒の思考を促す橋渡しになっているだろうか。さらに、既習表現を駆使しながら生徒やALTと交流をするuserとしての英語教師の姿は、生徒にとって、learnerおよびuserの最も身近なロールモデルであり、「使う」と「学ぶ」の橋渡しを体現する役割も担っていると言えるだろう。

まとめにかえて（生徒の声～AI活用による英語教育強化事業（文部科学省）より～）

本学共同教育学部附属中学校は、文部科学省事業の採択を受け、「AI英語モデル校」としてGELP（ベネッセ・コーポレーション）とTransable（立命館大学研究員杉山混平氏開発）を中1～3年の全生徒が使用している。5月から1月まで約9ヶ月間、授業や家庭学習で2つのAIツールを活用した後のアンケート調査の最終質問項目に対する自由記述の回答の抜粋を掲載する。

生徒の生の声に耳を傾け、英語教師としての役割やアイデンティティ、そして教室で生徒と外国語を学んだり外国語を通して文化や考え方を学んだりすることの意義について考える機会としてほしい。

[質問項目] ALTの〇〇先生と英語でやり取りをしたり、あるいはGELPを使って英語のやり取りの練習をしたりすることができますが、学校の常勤の英語の先生（〇〇先生・〇〇先生・〇〇先生）が、英語の授業中に英語を使って生徒の皆さんとやり取りをすることにどんな意味があると思いますか。あなたの考えを聞かせてください。（授業での体験や感想、今後の要望でも構いません。）

- ・授業で先生が実際に経験したことを話してくれたため、英語が身近な存在だということに気づき、英語を使えるようになりたいと意識が変わったので、意味があると思いました。
- ・先生方が英語を上手にしゃべる場面を日常的に見ることができることで、自分にもできるかもしれないという自信につながる。
- ・AIなどではできない、人との対話特有の緊張感？を味わえる。
- ・先生も昔は自分たちと同じで英語が今みたいにはできなかったと思うので、自分たちが英語を学びやすくなるような授業を行うことができると思う。
- ・自分は本当に英語が苦手だと人と会話するときに、先生がわからない単語や表現を教えてくださいましたら、英語の授業をもっと楽しめると思った。
- ・英語を少しでも自分たちにとって身近なものにしようとしているのかなと思った。
- ・生徒にあったスピードなど工夫して英語を伝えてくれるから、1番わかりやすく英語を学べる。
- ・生徒のお手本になってもらえる。
- ・先生が英語を使うことで英語力がなくても自分たちで頑張る英語を自発的に話すようになると思う。先生が日本語ばかりだと、生徒もゆるくなっちゃってあんまり英語力が高まらないと思ったから。
- ・先生が授業中に英語を使ってくれればペアに質問するときのように質問すればいいかわかる。

生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための 授業力向上セミナーの実施

東京都教育庁指導部義務教育指導課

義務教育指導課では、令和2年度から、中学校の授業改善に向けた取組として「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナー」を開催している。本セミナーは、学習指導要領で求められる「言語活動」を中心とした授業について、指導教諭等が実践した授業の映像の視聴や指導事例の発表等から指導の工夫点等を学ぶとともに、受講者同士による協議等を通じて学びを深めていくことができるよう構成している。

本稿においては、今年度実施した全2回の内容から先生方の発表の概要を紹介する。

第1回：「目的・場面・状況」を意識した言語活動の充実に向けた授業改善について

1 授業公開（授業者による解説、7月に実施した第2学年授業映像の視聴）

中野区立中野東中学校 指導教諭 井上 智絵 先生

○「単元のゴールを見据えた授業づくり」や「言語活動の工夫」について

- ・文法や本文の理解そのものを単元のゴールとせず、それらを「使って」自分の考えを表現する力の育成を重視している。そのため、毎回の授業の最後には、必ず言語活動を設定している。
- ・コミュニケーションの「目的・場面・状況」の具体的な設定を大切にするとともに、単元のゴールから逆算し、言語活動を授業の中心として単元計画を作成している。文法や教科書本文は、単元のゴールを達成するための「材料」と捉え、生徒が自分の言葉で伝えるための手段として活用できるようにしている。
- ・「誰に」「何のために」「何を」「どのように伝えるのか」という視点を持ち、単元のゴールを設定することで、言語活動の意義が明確になり、生徒の学習に対する主体性を高めている。
- ・単元のゴールに向け1時間ごとに授業のゴールを設定し、指導を積み重ねることで、生徒が学習した語彙や文法を活用し、学びの成果を実感できるようにしている。

○今後の授業改善に向けて

- ・教科書を、言語活動の際に生徒が「使う」ための素材として捉え、教科書「を」教える授業から脱却し、教科書「で」教えることを意識する。言語活動の時間を十分に確保し、その充実を図るため、教科書のどの部分をどう活用するかを見極め、目的に応じて効果的に使用する。
- ・単元の最後にパフォーマンス課題を設定し、指導した内容を生徒が身に付けているかを確認する。生徒の英語力の向上に向け、単元を通して、単元終末のパフォーマンス課題と結び付いた各時間のゴールの達成を積み重ねていくようにする。
- ・授業のテンポを上げて生徒が安心して取り組むことができるように、1時間の授業の構成をパターン化する。また、授業時間を有効に活用できるように、ICTやデジタルを効果的に使用し、教材間の行き来を最小限にする。

2 指導事例紹介

(1) 「目的・場面・状況」を意識した言語活動 ～生徒の主体性を引き出す授業づくり～ 福生市立福生第一中学校 指導教諭 寺沢 陽子 先生

- 単元で学ぶ言語材料と題材を確認し、言語活動の領域を決定する。その上で、単元終

末の言語活動における「目的・場面・状況」を適切に設定し、生徒がコミュニケーションの場面を具体的に想像できるようにしている。生徒の主體的な取組、思考の深まりを促すことを通じて、英語力の向上を図っている。

- 生徒が単元の目標を継続的に意識し、目標に向かっていくことを実感できるよう、振り返りシートを活用している。また、振り返りシートに表現等を蓄積させることでインプット量を増やすなど、単元終末の言語活動に向けた準備を十分に行っている。

(2)「聞くこと」指導の実践事例紹介

国分寺市立第五中学校 主幹教諭 前川 卓哉 先生

- リスニング指導の際には、目的を明確にして指導を行っている。例えば、「概要を捉える」「要点を捉える」など、「何のために」活動を行っているのかを生徒に示すことで、生徒が主体的に取り組めるようにしている。
- 教科書のリスニング用教材を活用することで、準備時間の短縮や無理のない継続した指導を行っている。その際、生徒が聞き取る内容を概要から詳細へと段階的に変化させるよう指導していくことで、生徒が達成感を得られるよう工夫している。

3 まとめ 葛飾区立常盤中学校 校長 平岡 栄一 先生

参加された先生方が本セミナーを大変前向きに受講し、活発に協議を行っていた。授業公開や指導事例紹介の内容は、各自が授業改善に生かせる内容であった。本日の内容を今後の実践に反映し、東京都の英語教育の一層の充実に向けて御尽力いただきたい。

第2回：授業改善に向けたICT・デジタルの活用について

1 指導事例紹介

(1) ICTやデジタル教材活用の前に立ち止まり考えるべきこと

渋谷区立松濤中学校 主幹教諭 橋本 晋作 先生

- 授業の基盤を整える
 - ・「3年間の英語の授業を通じて生徒に身に付けさせたい力」から逆算して授業づくりを行うなど、単元や年間を見通して指導を計画している。また、指導を通じて生徒が身に付けた力を見取るための評価場面及び評価規準を適切に設定するなど、指導と評価に整合性をもたせることを大切にしている。
 - ・生徒が集中して授業に取り組むための基盤を整えられるよう意識している。授業規律等を含め、一貫した指導を徹底することで、学習環境を整えている。
- 授業基盤としてのICT・デジタル教材の活用
 - ・言語活動の時間、生徒が思考する場面を増やすために、ICTやデジタルの活用を進めている。その際、ICT・デジタルの活用は言語活動の充実等に向けた手段であり、活用そのものが目的にならないよう留意している。
 - ・ICT・デジタルの活用を通じて、生徒が自身の学習の記録や他の生徒との情報共有を容易に行うことができ、自身の学習を深められるようにしている。

(2) 生徒にとっても教師にとっても効果的なデジタルの活用 ～今までアナログでやってきたことをデジタルでさらに効果的に～

板橋区立板橋第二中学校 主幹教諭 河野 光志 先生

- デジタルを使う意義
 - ・デジタルの活用を通じて、資料配布、教員と生徒、又は生徒同士での情報共有や他者参照を短時間でできるようにすることで、言語活動を十分に確保できるようにしている。また、デジタルで作成した教材は繰り返し使うことが容易であることから、印刷や教材作成の時間の短縮など、教員の負担軽減につなげている。
- 効果的なデジタルの活用実践例
 - ・AIアシスタントを活用し教科書の題材に沿った英文や画像の生成を行うなど、デ

デジタルの活用を授業改善に生かしている。一方で、紙に書くなど従来の指導の良さ、効率も意識しながら、生徒にとってより良い方法を選択することを大切にしている。

2 実践事例紹介～「デジタルを活用したこれからの学び」研究開発委員会中学校・外国語部会の取組から～

(1) 「学習者用デジタル教科書を活用した授業改善」

府中市立府中第七中学校 主任教諭 石原 公仁余 先生

- 学習者用デジタル教科書の効果的な活用に向け、「①生徒との単元・本時の目標の具体的な共有、②生徒の自立的な活用を促す学習環境の整備（機能の習得・練習機会の確保、適切な課題設定、生徒に委ねる場면을吟味した授業準備、目標に沿った振り返り場面の設定等）、③生徒が自由に活用する時間の設定（生徒の自由な発想に基づく活用方法の創出）、④『紙又はデジタル』、『手書き又は入力』など、学習方法を選択する場面の積み重ね」を行っている。単元・本時の目標の達成に向け、生徒がデジタル教科書のどの機能を使い、どう活動するかなど、学習方法を自ら選択できるようにしている。

(2) 先進的な学習アプリ等の活用を通じた授業改善

渋谷区立笹塚中学校 主任教諭 長澤 理世 先生

葛飾区立新宿中学校 主幹教諭 星 正行 先生

八王子市立別所中学校 主幹教諭 小川 史哲 先生

- 開発委員会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、AI英会話アプリ、動画視聴サービス等の活用を通じた授業改善について研究した。これらのアプリ等を活用し、以下の取組を行った。

- ・「個別最適な学び」の視点：各生徒の習熟に応じた課題（語彙や表現、会話の内容等）で学習する機会をつくる「指導の個別化」、それぞれの興味・関心に応じたトピックや言語活動の相手（生徒、教師、AI）を選択して学ぶ「学習の個性化」
- ・「協働的な学び」の視点：学習の過程や成果を生徒同士で共有し、他者の視点を取り入れる（他者参照する）ことで、新たな考え方や学び方に気付き、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の充実

3 まとめ 八王子市立甲ノ原中学校 校長 酒井 章 先生

授業力の向上に向け、授業の基盤を整えることやデジタルの活用を進めていくことが必要である。本日の内容を参考に日々の授業を振り返り、更なる授業改善に取り組んでいってほしい。参加された先生方の今後の一層の御活躍に期待している。

「義務教育指導課ポータルサイト」の「外国語教育」のページには、外国語教育の充実に向けた資料を掲載しています。また、第2回セミナーで紹介した、「デジタルを活用したこれからの学び」研究開発委員会中学校・外国語部会にて作成した指導資料は同ポータルサイトの「学力向上」のページに掲載しています。

【義務教育指導課ポータルサイト】

<https://www.gimukyoiokushidoka.metro.tokyo.lg.jp/>

※学校関係者ページの閲覧に必要なユーザー名（ID）、パスワードは、
区市町村教育委員会を通じて各学校に通知しています。



担当：指導部 主任指導主事 西 雅生
義務教育指導課統括指導主事 早川 裕之
義務教育指導課指導主事 木庭 宏明・佐藤 潤哉

東京都における「グローバル人材育成」

東京都教育庁グローバル人材育成部国際教育企画課長 軽部 智之

1 東京都が目指すグローバル人材育成

様々な分野でグローバル化が進展している中、多様な人々が共生し、互いを認め合う東京の実現に向けて、これからの時代を生きる子供たちには、自己を確立しつつ他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と協力・協働しながら課題を解決する力が求められる。また、多くの外国の人々と交流する機会が増えていく中、自らすすんで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚を醸成する必要がある。

東京都教育委員会は、グローバル人材育成の目標の設定とその目標達成への手段を明確にした「東京グローバル人材育成計画'20(Tokyo Global STAGE'20)」(平成30年2月)を踏まえ、令和4年3月、都内公立学校において、グローバル人材育成に向けた取組を推進していくためのガイドラインとなる「東京グローバル人材育成指針」を策定した。

2 「東京グローバル人材育成指針」

■ 主な内容

- 学校において学習・教育活動を進める上での考え方
 - 小・中・高等学校を通して育成したい資質・能力
 - 期待される子供たちの姿(資質・能力)
 - グローバル人材育成の視点からの教科横断的な取組例
 - 中学校英語スピーキングテストやTOKYO ENGLISH CHANNEL(※)など、授業等で活用できる東京都の施策
- ※TOKYO ENGLISH CHANNEL:小学生から高校生までが英語を自学・自習することができるウェブサイト。動画とオンラインイベントの2つの要素で構成。

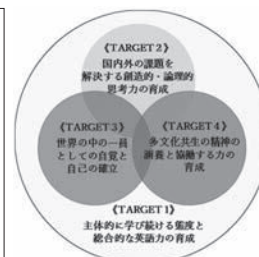


小・中・高等学校を通して育成すべき資質・能力を4つのTARGETとして設定し、主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成を基盤としながら、各TARGETを相互に連携させた教育を推進していくことを目指している。

3 4つのTARGETによる東京型グローバル人材育成モデルの設定

■ 4つのTARGET

- 【TARGET 1】主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成
- 【TARGET 2】国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成
- 【TARGET 3】世界の中の一員としての自覚と自己の確立
- 【TARGET 4】多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成



【4つのTARGETのイメージ図】

図で示す最も大きいサークルTARGET 1「英語力・主体性」を基盤として、TARGET 2「創造性、論理力、思考力」、TARGET 3「自己の確立」、そしてTARGET 4「多文化共生」を育成する。

TARGETを育成するためのアプローチとして、まずは学校での取組がある。学校での取組をさらに充実させるために、東京都教育委員会のグローバル人材育成の施策を学校の取組と関連させてグローバル人材を育成していく体系が、「東京型グローバル人材育成モデル」である。

小学校から高等学校まで一貫して4つのTARGETの育成を目指し、「世界を視野に新しい時代を切り拓く人材の育成」を推進していく。

4 グローバル人材育成部の取組

本部では、世界で活躍するグローバル人材の育成に向けて、4つのTARGETの育成に係る様々な施策を実施し、小中高を通じた英語教育と国際理解教育を推進している。

課	担当	主な事業
国際教育企画	国際教育企画	●国際教育企画・調整 ●JET・ALT配置 ●MOU（教育に関する覚書） ●Tokyo Global Student Naviの活用促進 ●施策の成果検証
	国際教育推進	●オンライン英会話の実施 ●英語資格検定試験受験支援 ●英語スピーキングテスト（ESAT-J）の実施 ●指定校（GE-NET20・英語教育研究推進校） ●教員の英語力向上事業
	日本語指導	●「日本語指導推進ガイドライン」及び児童・生徒用テキスト・動画等の活用促進 ●アセスメントの実施・実施支援 ●春期・土曜日本語講座の実施
国際交流教育	国際交流教育	●都立高校生等の海外派遣事業 ●海外留学生受入事業（グローバルフレンドシッププログラム） ●教員海外派遣研修 ●海外学校間交流推進校
	国際教育事業	●TOKYO ENGLISH CHANNEL ●TOKYO GLOBAL GATEWAY ●TEP-CUP（東京都高等学校英語プレゼンテーションコンテスト） ●英語でジョブチャレンジ

いつでも、どこでも、誰でも、生きた英語に触れられる、東京都教育委員会の外国語教育・国際理解教育に関するポータルサイト「Tokyo GLOBAL Student Navi」で、各事業に係る情報を掲載している。

<https://global-navi.metro.tokyo.lg.jp/>



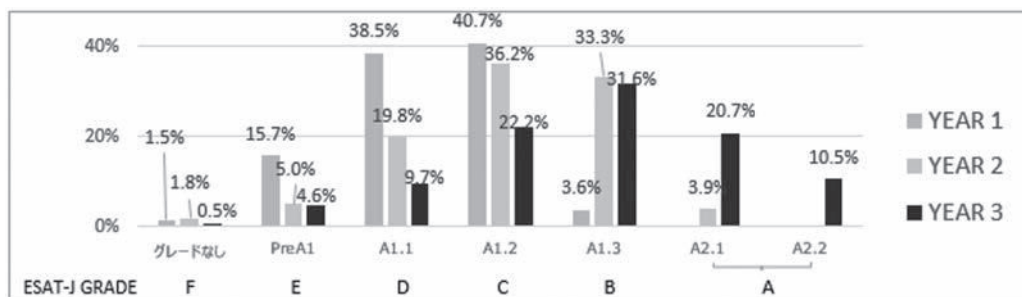
次頁より、東京都教育委員会のグローバル人材育成に関する主な取組を紹介する。

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)を活用した 学習改善のための生徒用補助資料について

東京都教育庁グローバル人材育成部 国際教育推進担当課長 宮崎 智

東京都教育委員会は、小・中・高を通じた英語教育や国際教育に関する施策を重層的に展開し、世界で活躍することができる人材の育成に向けた取組を推進しており、その取組の一環として、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）を実施している。

次のグラフは、「令和6年度 ESAT-J結果概要」である。学年が上がるにつれて、ESAT-J GRADEのEやDが減少し、BやAが増加するなど、英語の「話すこと」の力が着実に上昇していることが分かる。一方で、十分に力を発揮しきれていない生徒が、特に2年生から3年生にかけて一定数存在しており、全体の底上げを図るための支援の充実が求められる。



これらの結果を踏まえ、更なる授業改善や生徒の学習改善を図るため、事業者であるブリティッシュ・カウンシルと連携して参考となる資料を作成し、広く公開している。



Tokyo GLOBAL Student Navi



過去問題・解答例・採点基準

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J YEAR 3)

年度	試験種別	設問動画	解答例解説動画	問題及び解答例	各パートにおける解答例	採点基準 (PDF)
令和6年度	本試験	設問動画	解答例解説動画	問題及び解答例 (PDF 1.9MB)	各パートにおける解答例 (PDF 2.8MB)	採点基準 (PDF 1MB)
	予備日	-	-	問題及び解答例 (PDF 2.2MB)	-	-
令和5年度	本試験	設問動画	設問動画 (解答例あり)	スクリプト (PDF 1009KB)	解答例 (PDF 522.9KB)	採点基準 (PDF 387.1KB)
	追・再試験	-	-	スクリプト (PDF 829KB)	解答例 (PDF 521.5KB)	採点基準 (PDF 387.1KB)
令和4年度	本試験	設問動画	設問動画 (解答例あり)	スクリプト (PDF 1.3MB)	解答例 (PDF 638.1KB)	採点基準 (PDF 371.2KB)
令和3年度	プレテスト	設問動画	設問動画 (解答例あり)	スクリプト (PDF 1.2MB)	解答例 (PDF 638.9KB)	採点基準 (PDF 394KB)
令和2年度	プレテスト	設問動画	設問動画 (解答例あり)	スクリプト (PDF 1MB)	解答例 (PDF 509.7KB)	採点基準 (PDF 401.3KB)

今回はTokyo GLOBAL Student Naviで公開している補助資料のうち、学習改善のための動画教材について紹介する。

■令和6年度 ESAT-J 解答例解説動画

本動画では、採点基準や問題内容の説明とともに、目標とするCEFR-Jレベル及びその上位レベルの解答例（声優によるモデル音声）や評価に関する解説等を紹介している。解答例は実際の解答を参考に例示するとともに、採点基準に基づき、誤りを減点するのではなく、「できていること」をプラスに評価していることが分かる。

また、生徒が自身の解答を振り返る際の参考となるよう、解答例から見える傾向やより良く伝えるためのアドバイスを説明している。

<ESAT-J YEAR 3 から抜粋>

Part A 音読の問題 レベル別の解答例 YEAR 3

★★★

2 Today, I will tell you about ...Helen. She is from London, and she will study at our school ...for one month. We will take class together. She hope to learn about Japanese history and ... culture. Why don't you ask her about UK?

このあたりが聞き取りにくいんだね。不自然な問っていうのはこのへんかな？

ESAT-J 中学校英語スピーキングテスト

Part D 自分の意見を発表する問題 レベル別の解答例 YEAR 3

A2.1

I think restaurants make our town better ... because ... uh delicious food can make people very happy. And I want to go to the restaurant and help ... help people.

全体的によく話せていると思うけど、このあたりが補足情報が足りないという部分かな。

ESAT-J 中学校英語スピーキングテスト

本動画を授業等で紹介することで、生徒が視聴し、自らの学習に生かすきっかけを得られると考える。より多くの学校で、受験後の復習やこれからESAT-Jを受ける際の準備のための資料として活用してほしい。

都立高校生、教員等の海外派遣研修等について

東京都教育庁グローバル人材育成部 国際交流教育課長 鈴木 基成

1 東京都教育委員会の国際交流・「生徒の海外派遣研修」に関する取組

本事業では、学校での学びを現地ならではの経験を通じて実践的に深められるよう、現地教育機関や大使館等と連携し、都立高校生等を対象とした東京都教育委員会独自の「海外派遣研修プログラム」（1週間程度）を企画・実施している。令和7年度は、11か国に約300名の生徒を派遣した。

都立高校生等のグローバルマインドセットの育成を推進するため、全ての都立高校等において、様々な交流機会を提供することを目的に以下のプログラムを実施した。

海外派遣研修に参加した生徒は、帰国後、参加していない生徒等に成果を広く還元するため、参加校や東京都教育委員会主催の成果報告会で、成果発表を行っている。

(1) ジェネラルプログラム

～世界の高校生等との交流や異なる文化に触れる体験を通じた「多文化共生社会の実現に向けた意識の醸成」～

【派遣先国】ヨルダン、トルコ、エジプト、マレーシア、インドネシア

(2) スペシャライズドプログラム

～学術・技術・SDGs分野における海外の先進的な取組への関わり等を通じた「自己の可能性の追求」と「キャリア形成」への動機付け～

【派遣先国】アメリカ、イギリス、ニュージーランド、アラブ首長国連邦、カナダ、フィンランド



現地高校生との交流



現地農家訪問



現地企業訪問

2 都立高等学校等における留学生の受入事業

「東京グローバルフレンドシッププログラム」の取組

より多くの都立高等学校等において、在籍する生徒が日本にしながら国際交流の機会を得られ、国際理解を深めることができるよう、海外からの留学生の受入拡大を推進している。令和7年度は11か国から合計90名の留学生を1週間受け入れた。



日本文化体験（あやとり）

3 「海外学校間交流推進校」の取組

グローバル人材育成の一層の促進を図るため、姉妹校交流をはじめとした、海外の高

校等との交流活動を積極的に推進する学校を「海外学校間交流推進校」として指定し、交流活動に必要な教育環境の整備等の支援を行っている。

4 教員等の海外派遣研修

(1) 英語教育推進プログラム（約70名派遣）

都内公立学校教員（中高英語科・小学校）を対象に、「最新の英語教授法」等を学び、異文化への理解を深めることで、児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上につながる指導法を学ぶことを目的としている。今年度は、英語を母語又は公用語とする国（オーストラリア）へ1か月程度派遣した。



現地大学

(2) 英語教育推進プログラム【アドバンスト】（20名派遣）※今年度新設

都内公立中学校及び高等学校等の「外国語（英語）科教員」のうち、指導的立場にある教員を、英国へ派遣すること及び授業視察に関する研修を受講させることにより、教員の指導力の向上を図り、東京都全体の教員の指導力向上を目的としている。今年度は、英国の教育機関に2週間程度派遣した。



現地教育機関

(3) グローバル教育推進プログラム（約80名派遣）

教科を問わず東京都公立学校教員（管理職・指導主事等を含む）を対象として、今年度は、英語を母語又は公用語とする国（シンガポール）へ1週間程度派遣し、海外の教育事情・多文化共生等への理解を深め、自校や地域での教育活動へ応用する力を身に付けさせるなど、グローバル教育を推進する教員を育成することを目的としている。



現地教育機関

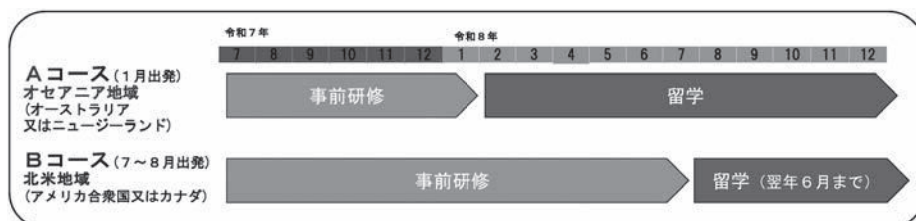
5 次世代リーダー育成道場

(1) 事業の目的・ねらい

次世代リーダー育成道場は、グローバル化が進む中、将来、様々な場面や分野で活躍し、日本や東京の未来を担う次代のリーダーを輩出するため、都立高校生等を対象とした海外留学支援事業である。事前研修、約11か月間の海外留学、事後研修を通して、海外で通用する英語力や広い視野、世界に飛び出すチャレンジ精神、課題解決能力等を育成することを目的としている。

(2) プログラムの概要

プログラムは（1）事前研修、（2）留学、（3）事後研修で構成され、留学の開始時期により、AとBの二つのコースを設定している。各コースに、アドバンストクラスを設置し、理数やSTEAM教育等の専門性の高い教科において高度な教育を行っている学校に留学できるとともに、自分の興味・関心や学業のレベルに合った留学先の学校を希望することができる。次の表は、令和7年から令和8年にかけてのスケジュールである。



都立高校生向け英語を使う機会の提供について

東京都教育庁グローバル人材育成部 国際教育事業担当課長 中條 堅一郎

1 英語を使う機会の提供について









東京都教育委員会は、英語で話す機会を通して、英語力を高める「HOP」、日本にしながら海外の同世代の人々と交流し、国際感覚を培う「STEP」、海外での直接体験を通して、多文化共生の精神を涵養する「JUMP」の取組を通じて、世界で活躍できる人材の育成を推進している。

今回は、令和7年度の「HOP」の取組として以下に三点紹介する。

2 TGGサマーキャンプ（TGGを活用した1泊2日の英語漬け体験）

都立高校生を対象として、使える英語力を育成するため、海外に行かなくても「英語漬け」の環境を体験できる1泊2日のTGG宿泊プログラムを令和5年度から実施している。

江東区青海のTGG BLUE OCEAN及び立川市のTGG GREEN SPRINGSで実施し、令和7年度は約370人の生徒が参加した。参加生徒からは「エージェントの方が優しく、積極的に英語を使うことができた」「英語漬けの生活で、英会話に少し自信がもてるようになった」等の声があり、主体的に英語を学ぶ契機としている。

【2日間の流れ(疑似留学のイメージ)】	
 <p>① チーム・ビルディング 英語で自己紹介をします。徐々に英語の世界に慣れていきます。</p>	 <p>⑤ 英語「で」学ぶ 多様な文化的背景を持つEnglish Speakerを通して、多文化やSDGsについて学びます。</p>
 <p>② TGG国へ出発 飛行機へ搭乗し、客室乗務員へ英語で要望を伝えます。</p>	 <p>⑥ 食事の時も英語 英語で会話をしたり、ゲームを楽しみます。</p>
 <p>③ 入国審査 滞在日数、滞在目的などを伝えます。</p>	 <p>⑦ 成果を発表 参加者同士で発表しあうことで、学びを深めます。</p>
 <p>④ ホテルで宿泊手続き スタッフに客室の要望を伝えたり、利用できるサービスを尋ねます。</p>	 <p>⑧ TGGから帰国 学んだ内容を振り返り、今後の学習につなげます。</p>

3 英語でジョブチャレンジ（英語を使う職場で仕事体験）

都立高校生を対象として、英語を実践的に活用する機会やキャリアプランについて考える契機とするため、国際機関、外資系企業など、日常的に英語を使用する企業・団体等で仕事体験を行う取組を令和6年度から実施している。令和7年度は、23企業・団体で約170名の生徒が仕事体験を行った。参加生徒からは「海外勤務の選択肢など、将来について考えるきっかけになった」「自分たちが学習する英語が将来どのように活かされるのか理解できた」等の声があり、英語学習への意欲を高めるとともに、将来のキャリアプランを考える契機としている。

◆英語でジョブチャレンジ2025（令和7年7・8月）仕事体験の様子



企画のプレゼンテーション



海外の大学と留学に関する
オンライン会議



英字新聞作成

4 TEP-CUP（英語で自分のアイデアをプレゼンテーションするコンテスト）

都内在学・在住の高校生を対象として、実践的な英語による発表の機会を提供して、英語学習への機運の向上と英語を用いたプレゼンテーション能力の向上を図るため、令和5年度から実施している。動画による予選と、会場で聴衆を前に発表する本選があり、優秀な成績を収めた個人又はグループは、都知事賞などの表彰を受ける。参加生徒からは「大勢の前で発表する貴重な経験ができた。プレゼンテーションに関するアドバイスももらったので、今後に活かしていきたいと思う。」等の声があり、多くの学びを得る機会となっている。

また、総合的なプレゼンテーション能力の向上を図る取組の一環として、令和7年度から夏季休業中にプレゼンテーション講習会を実施している。

◆TEP-CUP 2025（令和7年3月）の様子



本選での発表



表彰式（都知事賞）



表彰式（集合写真）

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課 統括指導主事 坊本 朋久

東京都教職員研修センターでは、都内の公立中学校（義務教育学校、中等教育学校を含む）等の外国語科の先生方を対象に、指導力向上と英語力向上の二本立てで、英語の専門性向上研修を実施しております。

令和7年度に実施した研修を紹介します。

1 指導力向上を目指した研修

(1) 外国語活動・外国語【I】（小学校の授業デザイン）

「模擬授業体験を基に授業デザインを考えよう！ー一人1台の学習者用端末を用いてー」

- ・一人1台の学習者用端末を用いた授業実践を学び、自らの実践と関連付けながら効果的な使用方法を考え、授業のねらいに迫るための授業デザインの基礎・基本を身に付ける研修

〔対象〕 小学校・特別支援学校

〔日程〕 7月25日（金）

〔会場〕 LINK FOREST（多摩市）

(2) 英語【I】（中学校・高等学校の授業デザイン）

「模擬授業体験を基に授業デザインを考えよう！ー一人1台の学習者用端末を用いてー」

- ・一人1台の学習者用端末を用いた授業実践を学び、自らの実践と関連付けながら効果的な使用方法を考え、授業のねらいに迫るための授業デザインの基礎・基本を身に付ける研修

〔対象〕 中学校・高等学校・特別支援学校

〔日程〕 10月28日（火）

〔会場〕 東京都教職員研修センター

(3) 英語【II】（デジタル時代の授業デザイン）

「一人一人の資質・能力を育成するための外国語科の学習プロセス」

- ・一人1台の学習者用端末を活用して、児童一人一人の資質・能力の育成に向けた授業をデザインし、実践する力を高める研修

〔対象〕 小学校・特別支援学校

〔日程〕 9月17日（水）

〔会場〕 東京都教職員研修センター

(4) 英語【II】（デジタル時代の授業デザイン）

「一人一人の資質・能力を育成するための外国語科の学習プロセス」

- ・一人1台の学習者用端末を活用して、資質・能力の育成に向けた授業をデザインし、実践する力を高める研修

〔対象〕 中学校・特別支援学校
〔日程〕 10月1日（水）
〔会場〕 LINK FOREST（多摩市）

(5) 英語【Ⅰ・Ⅱ】（デジタル時代の授業デザイン）

「一人一人の資質・能力を育成するための外国語科の学習プロセス」
・一人1台の学習者用端末を活用して、資質・能力の育成に向けた授業をデザインし、実践する力を高める研修
〔対象〕 高等学校・特別支援学校
〔日程〕 6月25日（水）
〔会場〕 東京都教職員研修センター

(6) 英語【Ⅱ】（グローバル化に対応した実用的な英語力の育成）

「中学校・高等学校外国語科の授業づくり -グローバル化に対応した実用的な英語力を育成する指導の工夫-」
・生徒の4技能を養い、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の工夫について学び、自身の授業改善を図る研修
〔対象〕 中学校・高等学校・特別支援学校
〔日程〕 7月14日（月）～9月30日（火）
〔会場〕 オンデマンド配信で実施：受講者の所属校
〔講師〕 一般財団法人実用英語推進機構 代表理事 安河内 哲也 氏

2 英語力向上を目指した研修

(1) 英語授業力UP講座Basic（小学校外国語活動、小学校外国語）

「外国語活動教材（Let's Try!）で扱う語彙や表現を使って、アクティビティや英会話を楽しもう」
「小学校外国語の教科書で扱う語彙や表現を使って、アクティビティや英会話を楽しもう」
・ネイティブ講師や他の受講者との英語によるコミュニケーションを通して、英語を話す楽しさを体験するとともに、授業での指導に役立つ基本的な英語表現を習得する研修
〔対象〕 小学校・特別支援学校
〔日程〕 6月23日（月）、6月24日（火）、9月25日（木）、9月26日（金）
〔会場〕 全てオンライン：受講者の所属校

(2) 英語授業力UP講座Advanced（ティーチャートーク、ALTの活用、フリートーク）

「ティーチャートークの技術を高めよう」
「ALTとのチームティーチングや打合せに役立つ表現を学ぼう」
「英語によるフリートークを楽しもう」
・ネイティブ講師とのオールイングリッシュによるコミュニケーションを通して英語に対する自信を高めるとともに、指導に役立つ発展的な英語表現を習得する研修
〔対象〕 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校
〔日程〕 7月28日（月）、7月30日（水）、8月1日（金）、10月7日（火）、10月9日（木）、10月10日（金）
〔会場〕 全てオンライン：受講者の所属校

(3) 英語力UP講座（英検準1級取得支援、英検1級取得支援）

「英語力UP講座－問題演習や外国人講師との模擬面接を通して－」

- ・講師との問題演習や模擬面接を通して、英語検定1級の取得に必要な英語力を身に付ける研修

〔対象〕 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

〔日程〕 準1級 【集合】：6月19日（木）、7月3日（木）

【オンライン】：8月28日（木）、9月11日（木）

1級 【集合】：6月20日（金）、7月4日（金）

【オンライン】：8月29日（金）、9月12日（金）

〔会場〕 集合：東京都教職員研修センター、オンライン：受講者の所属校

(4) 小中学校教員対象外国語指導スキルアップ研修A（TGG青海、TGG立川）

「TGGで児童・生徒の発話を引き出すスキルを高めよう」

- ・TOKYO GLOBAL GATEWAY（以下、「TGG」という。）の特色である英語を用いて、児童・生徒から主に簡単な単語や短い文を用いた発話をより引き出すスキルを学ぶとともに、教員自らがTGGの外国人英語講師と英語で話すことを通じて実践的なコミュニケーションスキルを高め、指導力の向上を図る研修

〔対象〕 小学校・中学校・特別支援学校

〔会場・日程〕 TGG青海 8月1日（金）

TGG立川 8月8日（金）

(5) 小中学校教員対象外国語指導スキルアップ研修B（TGG青海、TGG立川）

「TGGで児童・生徒の英語コミュニケーションを活発にするための指導スキルを高めよう」

- ・TOKYO GLOBAL GATEWAYの特色である英語を用いて、児童・生徒から発話をより引き出すスキルや、英語でのやりとりを継続しやすくするための工夫を学ぶとともに、教員自らがTGGの外国人講師と英語で話すことを通じて実践的なコミュニケーションスキルを高め、指導力の向上を図る研修

〔対象〕 小学校・中学校・特別支援学校

〔会場・日程〕 TGG青海 8月6日（水）

TGG立川 8月19日（火）

「英語授業力UP講座Basic」、「英語授業力UP講座Advanced」、「英語力UP講座」は、英語研修実績のある企業と業務委託契約を締結し、ネイティブ講師等による専門的な英語スキルを取り入れた研修を実施しています。

3 令和8年度の専門性向上研修について

令和8年度も指導力向上と英語力向上の二本立てで、英語の専門性向上研修を実施する予定です。詳細は、令和8年4月以降、東京都教職員研修センターのWebページで御確認ください。

主体的な学びを生んだ英語劇の教育的力

千代田区立九段中等教育学校 教諭 藤山 太郎

「今年の英語劇には一体、何人が参加するだろうか」。そのような期待と不安と共に新学期が始まった。本校の英語劇は、例年3年生から参加者を募っている。部活動でも授業の一環でもなく、「有志」という形で行う取組である。果たして何人が集まるのか不安はあったが、それは杞憂であった。蓋を開けてみると、希望者はおよそ80名にのぼり、3学年の約半数にあたる人数であった。驚きや喜びと同時に浮かび上がった次の課題は、この人数をどのように束ねていくかという点であった。

80名という大人数をまとめることは容易ではない。そこで、脚本作成や演者、道具、演出といった役割ごとに班を編成し、各班にリーダーを配置した。その上で、教員である私はサポーターに徹し、主体的な運営を生徒に委ねる方針をとった。しかし、実際の活動は必ずしも円滑ではなかった。多くの生徒にとって演劇経験はなく、脚本作成では「自分が表現したいもの」と「観客に伝えるべきもの」との間で葛藤する様子も見られた。脚本選定や配役、舞台演出をめぐる意見が衝突する場面もあったが、私は基本的に介入せず、生徒自身に判断を委ねた。教員としての助言は、活動の進捗確認と英語表現に関する指摘に限った。それでも生徒たちはあきらめず、最後までやり切ったのだ。

各班での活動が続く、11月末の定期考査を終え、12月に入って初めて各班の成果を一つにまとめる機会を設けた。当初は噛み合わない部分も多かったが、そこからの生徒達の集中力は目を見張るものがあった。課題を洗い出し修正を重ねながら、「より良い作品を作る」という共通目標に向かって取り組んでいった。限られた上演時間の中で最高の演技を見せるため、当日の直前まで試行錯誤を続けていた。その積み重ねがあったからこそ、本校名がアナウンスされた瞬間、生徒たちの感情が大きく揺れ動いたのであろう。

本取組を通して、強く実感したことが二点ある。一点目は、日々の授業で積み重ねてきた学習成果が明確に表れていたことである。本校では1年次より、スキットやプレゼンテーションなどの発表活動を中心とした授業を継続してきた。語彙や表現はなお発展途上であるものの、話す活動においては臆する様子はほとんど見られなかった。舞台上で自然かつ堂々と英語によるセリフ回しができていたのは、日常の授業の成果であると感じた。

二点目は、「主体的な学びは学びの原動力である」という点である。今回は完全には有志による取組であり、運営の主体も生徒に一任したため、教員から指示を与える場面はほとんどなかった。それでも、生徒一人一人の「成功させたい」という強い意志が成果へと結び付いた。主体的に取り組んだ経験は、英語力の向上にとどまらず、学習に向かう姿勢そのものを育成する貴重な機会となった。

今回の英語劇への取組で、教員である私は主に支援に徹する立場であったが、その関わりの中で多くの示唆を得た。本実践は、今後の授業改善や学習活動の在り方を見直す上での重要な契機となり、次の実践へとつながる私の原動力となった。

「幸せ」は人を変える

江東区立第三砂町中学校 教諭 小林 美緒

このスピーチは、「幸せとは何か」という問いに、私自身が向き合うために、そしてこのスピーチを聞く皆さんに自分の言葉を伝えたくて書きました。日常の中で感じる不安や孤独、そして「自分はこのままでいいのだろうか」という迷いの中で、答えを探していたのは、誰よりも私自身だったと思います。特別な経験や大きな出来事ではなく、学校生活の中の小さな一場面から、人に支えられることの温かさや、誰かとつながることの大切さに気付きました。その気づきが、私にとっての「幸せの本質」でした。このスピーチを通して伝えなかったのは、幸せは遠くにあるものでも、誰かと比べて手に入れるものでもないということです。私たちのすぐそばにある「つながり」や「思いやり」の中に、生きる力になる幸せがあるということをお届けたいと思いました。この言葉が、聞いてくださった方一人一人が、自分自身の幸せを見つめ直すきっかけになってくれたら嬉しいです。

学級委員長として、学年・学級のことを誰よりも考え、そして誰よりも愛する棚木さんはこのように語った。中学生という多感な時期に、自分と向き合い、見出した答えを英語でここまで表現できるのかと驚いた。英語科の教員として、彼女の学級担任として、彼女を誇りに思う。

今回のスピーチの要は「ある日の水泳の授業で、初めて25メートルを泳ぎ切ることができ、クラスメイトと体育科教員と一緒に喜んでくれた」というエピソードである。スピーチの練習を始めた当初、この幸せなエピソードを語っている棚木さんは険しい顔をしていた。何をしても人一倍緊張してしまい、時には泣き出してしまう彼女は大きなプレッシャーと戦っていたのであろう。幸い、スピーチの内容、文法構造、英語の発音には全く問題がなかったが、内容に合わせた表情作りや自然なジェスチャーをいかに取り入れるかという大きな課題が見つかった。課題が見つかったことで彼女は今まで以上に練習を重ねていった。英語科の教員だけでなく、学年の教員、管理職までもが一丸となって彼女を支えた。努力の甲斐あって、都大会優勝という素晴らしい結果を得ることができたことを本当に嬉しく思う。

今回の経験から「母語でない英語という言語をいかに自分のものとするか」「自身の思いや考えを体現することがいかに難しいことであるか」について改めて考えることができた。また、英語という言語の本質に触れ、これからの教科指導、生活指導に生かしていきたいと強く感じた。棚木さんのような素晴らしい人材を育成できるよう、英語科教員としての使命を全うしていきたい。日々、生徒から学ぶことは多く、これが教員という仕事の醍醐味であり、魅力である。この気づきを与えてくれた彼女には感謝している。

最後になりますが、本校の英語教育にご尽力いただいている多くの皆様、並びに、江東区英語学芸会と東京都英語学芸大会を運営して下さった関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。また、中英研会報の原稿執筆という貴重な機会をいただきましたことに感謝申し上げます。

令和6年度研究発表について

副部長 高杉 達也（筑波大学附属中学校）

1 前年度までの研究のあらまし

令和4年度は、中学校検定教科書における発信語彙および中学生の英作文において実際に使用された語彙について中間的な分析を行った。また、「研究部中学校推奨語い1800」「研究部小学校推奨語い700」に基づく実践例を示し、生徒が書いた英作文を分析することで、使用語彙の実態に関する研究を進めた。

令和5年度は、「研究部中学校推奨語い1800」に基づいた語彙指導の実践例を提示した。加えて、生徒が英語で書きたいと考えたものの表現できなかった日本語を、トピック別および品詞別に分類し、生徒の「書きたい語彙」に焦点を当てた研究を行った。

2 令和6年度の研究

(1) 研究1

前年度までの研究から得られた示唆を踏まえ、令和6年度は、「英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧」（研究部、2024）作成時に用いたデータを英訳し、トピック別に整理することで、生徒および教師の実際のニーズに即した教材を提供できるのではないかと考えた。そこで、トピック別日英対照語彙リストを作成した。

本リストには、名詞・動詞・形容詞・副詞といった品詞別に語彙を掲載するとともに、授業でそのまま複製・配布した場合でも、生徒が表現活動において活用できるよう、英文の語順規則を示した「語順ナビ」を併せて掲載した。

(2) 研究2

コロナ禍を契機として教育のICT化が急速に進展する中、教師がICTをどのように教育活動へ活用すべきかを検討する必要性が高まっている。そこで、本研究では部員の実践を共有・整理し、その内容を示すことで、単なるノウハウの紹介にとどまらず、どのような指導場面において、どのように効果的に活用できるのかという観点から実践集を作成した。

3 今後の課題

令和6年度の研究は、語彙リストの開発や実践集の作成など、実際の教育現場により近い視点からの研究となった。一方で、作成した教材について、その具体的な活用方法を十分に示すことができなかったという課題も残された。今後は、教材の利活用方法の提示も含め、教師の日常的な授業実践により一層貢献できる研究を推進していく予定である。

4 参考文献

東京都中学校英語教育研究会研究部（2024）「語いと英語教育（46）」

東京教師道場で培った授業づくりの視点

清瀬市立清瀬中学校 主任教諭 福田 真由

日々の事務作業や生徒指導などに追われる中でも、授業をしている時間は気持ちが高まり、「ただ楽しい」と思える貴重な時間である。しかし、異動により環境が大きく変化したことで、授業に対するモチベーションをどのように維持すればよいのか悩んでいた。そうした折に、当時の管理職から声をかけていただいたのが、東京教師道場であった。ほぼ毎月行われる授業研究や指導案検討、さらにはお盆休み中も教授とやり取りを重ねた夏季集中協議など、非常に多忙な二年間であった。しかし、この二年間の学びが、私自身にとって大きな財産となったことは間違いない。

この研修の中で、私の授業づくりの軸となった言葉が三つある。

一つ目は、「目的・場面・状況を大切に授業」である。単元を通した学びの中で、「誰に向けて、何のために行うのか」という視点を明確にすることで、学びに必然性が生まれる。その必然性は、生徒の「納得感」につながり、主体的な学びを引き出すと考える。

二つ目は、「一本の串」という考え方である。これは、私が所属していた令和五年度中学校4班のリーダーが大切にしていた言葉の一つである。単元全体が単元末活動に向かって構成されているか、また一時間の授業においても、各活動が山場につながっているかを、「一本の串に刺さっている状態」として捉えるものである。

夏季集中協議では、主体的・対話的で深い学びを目指した模擬授業を行った。私は、単元導入を扱い、第一時に単元末の活動を生徒に提示し、ゴールを意識しながら学習に取り組みせる授業デザインを行った。単元末活動を設定すること自体は特別なことではないが、その共有の時期や方法を工夫することで、生徒が学びのプロセスを意識できるようになった点は、私にとって大きな変化であった。

三つ目は、「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」という意識である。ICTが急速に進歩する現代において、教科書に書かれている内容をそのまま伝えるだけでは不十分である。文章の行間に込められた思いに気付かせる発問を工夫し、さらに教科書内容を発展させ、オーセンティックな教材を活用することで、生徒の知的好奇心を刺激したいと考えている。

研修期間中、私自身の課題として挙げていたのが、「生徒に選択の余地を残した課題設定」であった。そこで最後の授業研究では、自分にとっての挑戦として、中学一年生の環境問題を扱った単元において、「より住みやすい社会を実現するために、SDGsをテーマとした国際協力・交流イベントの企画書を作成する」という目標を設定した。

生徒は、イベントの時期や地域、出店する屋台の内容、SDGsをテーマにしたポスターなどを自ら考え、来場者の姿を思い浮かべながら企画書を作成した。中学一年生にとって難易度の高い課題であり、改善点も多く見られた。しかし、「清瀬の野菜を使った屋台を開き、フードロスをなくすためのポスターを作りたい」といった前向きな意見が生徒から出され、主体的に授業に向かう姿を捉えることができた。

教師道場は、充実した自己研鑽の場であり、自身の授業を客観的に捉え、異なる校種の視点から学びを深めることのできる貴重な機会であった。そこで得た学びや出会いを礎に、自分自身も英語学習者であるという自覚をもち、魅力ある教員であり続けたいと考える。

ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を 一体化した授業の実践

足立区立第十四中学校 教諭 今井 美菜子
東京都教職員研修センター研修部教育開発課 指導主事 鈴木 美帆

1 主題設定の理由

主題は「ICTを活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体化した授業の実践」とした。現在、足立区教育委員会の定める「足立スタンダード」（めあての共有 → 個別学習 → 協働学習 → まとめ・振り返り）を実践し、ICTを活用して一人一人の学びを深め、対話を通じて表現できる授業を目指している。その中で得られた現時点での成果や課題について整理し、今後さらに質を高め、生徒たちの深い学びやパフォーマンスの向上につなげていくため本主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 研究課題

足立スタンダードの流れに沿って、ICTを活用した個別最適な学び（「指導の個別化」と「学習の個性化」）と協働的な学び（「ICTの活用」と「リアルな体験」）を一体的に充実させる授業の実践。

(2) 方法

①「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業設計

教師は知識の伝達者ではなく、生徒が自ら考え、他者と話し合いながら学びを深めることを導く進行役（ファシリテーター）となる。また、多様な生徒の学習特性や到達度に応じて個別に指導を行う「指導の個別化」と、目標・学習方法・教材・進度の自己決定を尊重する「学習の個性化」を実践の柱とする。さらに、リアルな体験に近づけるため、ケースメソッド（身近な出来事や社会課題を題材に、自分のこととして考える学び方）を取り入れる。例えば、「エシカルな商品を英語でPRする」活動を設定し、タブレットで調べ学習を行い、経験や感想を交えて英語でまとめ、発表を行う等である。

②事前準備

授業の効果を高めるために、次の準備を行う。

- ・スプレッドシートで学習進度表を作成し、生徒が「めあて」「進捗度」「振り返り」を共有できるようにする。
- ・教科書の内容及び学習目標に基づいて単元の到達目標を具体化し、生徒の思考を促す発問や活動を考える。
- ・「聞く・話す・読む・書く」を総合的に扱い、意見交換や協力活動を取り入れた学習プリント（4技能5領域を含み、かつ協働学習を取り入れた授業用プリント）を作成し、オンライン学習プラットフォームに解答・解説を提示する。
- ・単元全体の流れを示すプリントを作成し、拡大掲示して毎時確認できるようにする。

③授業の進め方（「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化した授業の流れ）

- ・授業の導入では、生徒が自ら「本時のめあて」を設定し、スプレッドシートの「学習進度表」に入力する。
- ・生徒はICT端末を活用し、到達度に応じて学習を進め、学習の個性化を実現する。

教師は机間指導を通して一人一人に応じた支援を行い、指導の個別化を図る。

- ・共通して見られるつまづき等は一斉指導で説明し、理解の深化を図る。
- ・「まとめ・振り返り」では、生徒が進捗や課題を記録し、次時や家庭学習へとつなげる。

(3) 実践

①帯活動（英会話）・課題点検（5分）

②導入（5分）：オンライン学習プラットフォームで単元の学習目標を確認する。生徒はスプレッドシートの学習進度表に自らのめあてを記入し、本時の見通しを立てる。その後、ピクチャースライドで関連語彙を確認する。

③個別学習・協働学習（25分）

－教員が作成した4技能統合プリントを用いて、協働学習を含む演習を行う。生徒はワークシートや動画を活用し、自ら目標を立て、学習方法を考えることで「学習の個性化」を実現する。協働学習を希望する生徒には対話の場を設け、個別学習を望む生徒には机間指導を通して「指導の個別化」を図る。さらに、生徒はプリントの課題を通じてスピーチの準備を進め、教員は原稿添削や英語での問いかけを行う。発表原稿の作成に際しては、生成AIを活用し、自作英文を推敲しながら教師に質問する。

④一斉指導（10分）：巡回で見られた課題を全体で共有し、解説する。

⑤まとめ・振り返り（5分）：スプレッドシートの「学習進度表」に達成状況やつまづき等の振り返りを入力し、自分の学習を客観的に把握する。さらに、クラスメイトのめあてや振り返りを共有することで、多様な視点に触れ、学習意欲の向上につなげる。

⑥備考<単元途中又は単元末での評価に関わる活動（一斉）>

－音読の評価音読と教科書の内容に関する質問を行い、知識・技能を評価する。
－発表の評価：発表画像を基に一人ずつ発表を行う。他者の発表を聞き、自分の表現をさらに深める学習につなげる。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

2025年7月のアンケート（回答226名）では93%が「楽しかった」、88%が「主体性重視の授業は有効」と回答し、自由記述でも前向きな意見が多く見られた。SP表の全国比分析では、聞くこと+7.6%、読むこと+8.8%、書くこと+11.6%といずれも実践前より高い達成率を示した。これらの結果から、「指導の個別化」と「学習の個性化」に基づくICT活用授業が、生徒の主体性と英語力の向上に有効であったことが実証された。さらに、2025年9月の授業の振り返りでは「世界の課題を自分事として考えるようになった」「発表した内容を実際に日常生活で実践している」等の記録が見られるようになり、本授業の学びが「エコバッグや3R（リデュース・リユース・リサイクル）など日常生活でできる小さな行動を実践したい」という意欲につながっていることも確認された。

(2) 課題

集中を継続させるためには、ICTの活用方法や学習の進め方を十分に理解させ、全員が実践できる流れを整える必要がある。課題の選択肢を十分に用意し、生徒一人一人の意欲を高める工夫をすることが、全員が個別に活動に取り組むための重要な点である。

4 参考文献

- －東京都中学校英語教育研究会研究部（2025）『語いと英語教育（47）－生徒の表現の幅を広げる発信・語彙リストとICTを使った指導実践例』東京都中学校英語教育研究会研究部
- －足立区教育委員会 教育指導部 学力定着推進課（2023）『足立スタンダード虎の巻』足立区教育委員会

総務部報告

(会長補佐 総務部担当 板垣 繁)

1 定期総会

6月26日、葛飾区立常盤中学校にて、対面及びオンラインによる定期総会を開催した。

2 地区幹事名簿作成

今年度の各地区幹事名簿を作成した。
これまで、各地区への連絡について、資源及び経費削減の観点から、従来の交換便及び郵送による方法を見直し、可能な限りメールによる伝達を行うことを目指し、推進してきた。今年度は、59地区全てとメールによる連絡が可能となった。

3 第49回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会神奈川大会第1回理事研修会 ※オンライン

6月20日、開催方法や分科会のもち方、発表原稿等について協議した。今大会は、コロナ後初となる対面による全体会を開催するため、細部にわたり確認、調整を行った。

その後、11月の発表に向け、東京都の発表者と連絡、調整を行いながら準備を進めた。

4 全英連との連携

定期的な事務連絡を行うとともに、7月30日、オンラインによる全英連運営委員会に都中英研として参加した。

また、9月、1月に「中英ネットワークショップ」の開催案内を、各地区幹事を通して会員に周知した。

5 第64回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会福岡大会 ※オンライン
10月31日、協議及び情報交換を行った。
(本大会については別ページに詳細)

6 第49回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会神奈川大会第2回理事研修会 ※オンライン
10月22日、2週間後に控えた本大会の最終確認及び次年度の第一案の検討を行った。

7 第49回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会神奈川大会
11月7日開催。東京都は全体会の後、第3分科会に参加し、発表を行った。
(本大会については別ページに詳細)

8 令和7年度東京都教職員研修センター教育課題研究発表会
11月、本発表会の教育実践発表に向けたポスターを制作し、提出した。研究発表会は1月28日から。

9 主な役員会

- 4月16日 (会長・副会長会)
 - ・今年度活動の打ち合わせ
- 6月10日 対面及びオンライン
 - ・役員組織等の確認
 - ・年間事業計画の検討
 - ・中英研定期総会に向けて 他
- 7月15日 オンライン
 - ・令和9年度関プロ東京大会について
- 11月12日 オンライン
 - ・令和9年度関プロ東京大会について
 - ・英語学芸大会の運営について
- 2月 対面及びオンライン
 - ・令和7度の活動のまとめ
 - ・令和8年度事業計画について 他

事業部報告

(事業部長 稲葉 高広)

1 サマーワークショップ

(8月1日(金)実施・都立豊多摩高等学校)

午前の部：若手教員を対象とした授業づくり研修会

「教科書の教材研究と単元指導計画の組立」

講師：亀田 洋斉（都立・豊多摩高）

加藤 真由子（調布・第八中）

午後の部：サマーワークショップ

「小中高大 各校種における技能統合の指導」

発表者：畠山 芽含（足立・鹿浜未来小）

遠藤 康子（練馬・貫井中）

亀田 洋斉（都・豊多摩高）

奥住 桂（埼玉大）

都内外から約60名の参加があり、生徒が世界で通用する英語力を身に付けるため、小・中・高・大の連携を密にする意識を会場全体で高めることができた。今年度から午前と午後の部に分けて研修会を実施したが、参加者の受講記録から、各参加者のニーズにあった研修内容となったと考えられる。

2 第41回 授業力アップ研修会

開催日：令和7年10月27日（月）

会場：町田市立鶴川中学校

テーマ：「小中高大の連携 ～「読むこと」に焦点を当てた単元構成及び授業展開～」

授業者：舩谷 明沙季（町田・鶴川中）

教科書を用いたペアでの対話活動を中心にしながら、さらに教科書の音読活動へと結び付ける授業を公開した。中学1年生段階の指導内容を中学卒業までを見据え、バックワードデザインで単元を計画した。本研修会では、東京学芸大学 准教授 白倉美里 先生から、授業づくりのポイントについてご助言をいただいた。協議では、質疑を深めながら、参加者が実践する具体例を共有した。

3 第78回英語学芸大会

(1) オンライン開催の部

(11月29日(土)実施・府中市立府中第三中学校)

◇Speakingの部A（参加数4）

1位…Effort and Point of View : My Hula Story

Aoba Takahashi（葛飾・新宿中）

2位…The Hidden Key to a Richer Life: Why Music Matters

Ogasawara Hibiki（目黒・目黒西中）

3位…Have You Ever Experienced Discrimination?

Mabuchi Riho（港・港南中）

◇Speakingの部B（参加数11）

1位…Why Do Japanese People Stand on One Side of the Escalator?

Harada Kaisei（港・赤坂中）

2位…In a Digitized Age

Sugiura Miku（港・港南中）

3位…I AM A Pole Dancer.

Yamao Riko（港・港南中）

◇Playの部（参加数4）

1位…Seize My Dream（板橋・上板橋第一中）

2位…Culture Gap（葛飾・新小岩中）

3位…Voice（板橋・高島第一中）

◇Performanceの部（参加数3）応募のあった作品はすべて優秀作品として表彰。参加校等については都中英研HPに掲載。

(2) 集合開催の部

(12月26日(金)実施・たましんRISURUホール)

◇Speakingの部（参加数15）

1位…The Truth that Changed Me

Tanaki Tricia（江東・第三砂町中）

2位…What is “Normal”?

Okabe Ren Randall（板橋・志村第二中）

特別賞…My Favorite Thing

Mitsumori Erin（中野・北中野中）

◇Playの部（参加数3）

1位…Snow White（千代田・九段中等）

2位…DESCENDANTS : THE RISE OF RED（練馬・石神井西）

3位…PETER PAN（文京・小石川中等）

オンライン・集合開催ともに、応募数の増加を目指し、更なる普及活動を行う。

調査部報告

(部長 荒川 高広)

1 コミュニケーションテストについて

昨年度よりタブレット端末を用いた出題、解答を試みている。また、参加校の先生方が調査部員とともに、ライティング問題の採点を行う研修会を夏休み中4回行っている。

参加者から、「英作文の際に、『生徒にどのような表現を使用させたいか』という教師のねらいによって、評価規準を設け、観点を細かく見て評価することを学んだ。」「問題を作成する際にも、『どの観点を見取りたいか』を明確にし、作問したい。」などの感想をいただいた。

今後さらに参加校が増え、こうした採点の機会を通して、部員以外の先生とともにライティングの評価の在り方を学べることを調査部員一同願っている。

2 夏季ワークショップ

日時：令和7年8月19日（火）

内容：

【講義】

「『コミュニケーションテスト』のスペックから問題作成へ ～書くこと～」

【ワークショップ】

参加者が作成した1学期の定期考査問題について協議、改善案発表、講師助言

講師：工藤 洋路 先生 [講義・助言]

(玉川大学文学部英語教育学科教授)

本多 敏幸 先生 [助言]

(都留文科大学非常勤講師ほか)

まず工藤先生から、学習指導要領や国立教育政策研究所の資料などを押さえつつ、「書く力」を測る考査問題作成のポイントについて御講義いただいた。その中で、ある文法事項をルールとして理解していると

いう「知識」の段階とそれを実際に駆使して表現できる「技能」の段階、そして目的・場面・状況に見合った適切な表現ができる「思考・判断・表現」の段階の違いを再確認した。また、「スペック」という設計図を作成し、各問題の作問意図を明確にすることの大切さをあらためて学ぶことができた。

続くワークショップでは、参加者が各校で実施した考査問題のうち「書くこと」の領域で作成したものを持ち寄り、当該問題についてグループごとに協議した。グループ内で共有した問題例のうち1つを選定し、どうしたら、より出題者の見取りたい力を測るのに適切な問題（リード文や設問など）になるかをさらに協議した。最後に、各グループが当初の問題と改善後の問題案について発表し、工藤先生、本多先生より御助言をいただいた。

実際の考査問題を題材にすることで、測りたい力に見合った目的・場面・状況の設定の仕方などを具体的に考えることができた。(参加者57名)

<ワークショップ参加者より>

- ①講義 ②グループでのブラッシュアップ ③指導・講評の内容が、とても学びを深めてくれているように思います。
- 実際にグループワークをすることにより、自分の中で曖昧になっていたものが具現化されました。
- 「話すこと→書くこと」は何年か意識してやっていますが、「読むこと→書くこと」の領域統合を段階的にやっていきたいと思っています。やりたいことが明確化できました。
- テストづくりがこんなにも楽しいことなんだと初めて感じました。業務としてやっていた自分が恥ずかしくなりました。本多先生と工藤先生からの講評からしっかり学び、次の教材研究に生かしていきたいと思っています。
- 相談しながらテストを検討することでセンスが研ぎ澄まされるのを感じました。判断が難しい部分もありましたが、「考えることの大切さ」を改めて感じました。

研究部報告

副部長 多田 翔

1 研究主題と研究の概要

研究冊子『語いと英語教育48』

- ①「生徒の表現の幅を広げる発信語彙リスト」の活用法に関する研究
前年度に作成した「トピック別日英対照語彙リスト」及び「語順ナビ」の活用事例をまとめ、生徒の発信力を高めるための支援に関する研究を進めた。
- ②研究部員の授業力向上を目指した授業研究部員同士で授業実践を発表し合い、互いに評価したり、助言や改善点を伝え合ったりすることで、研究部員一人一人の授業力を高めていった。

2 研究部ワークショップ

本年度は、対面で実施し、研究部員が実践発表を行った。また、新たな試みとして特別講師を招いた。

第1回（対面）：7月29日（火）

会場：杉並区立泉南中学校

参加者 64名

- ①「中間指導について」
小林 竜也
（千代田区立九段中等教育学校）
- ②「気軽に試そう、Try Out活動！～教科書を活用して、生徒が言いたいことをTry Outさせてみましょう～」
小澤 美沙姫（杉並区立泉南中学校）
- ③「inductive teachingの実践と明示的指導後の取り組み」
長谷川 眞司
（小平市立小平第三中学校）

第2回（対面）：8月5日（火）

会場：千代田区立九段中等教育学校

参加者 76名

- ①「Picture Cardの活用の実践例」
瀧本 廣樹
（東京都立大田桜台高等学校）
- ②「即興で話す力を高める授業実践－トピック型・タスク型テーマを設定した活動を通して」
松野 麻里恵（港区立三田中学校）
前田 宏美（文京学院大学）
- ③特別講師
「学習者エンゲージメントを促す英語授業の着眼点」
和田 玲 先生
（ウィーン大学英米研究科教育言語学
研究員、長崎大学教育学部助教）

3 公開授業・研究発表会

2月20日（金）、江東区立第三砂町中学校の体育館で、公開授業と研究発表会を実施した。

(1) 公開授業

授業者：多田 翔 主任教諭
（江東区立第三砂町中学校）

内容：Lesson 8

“Rakugo Goes Overseas”
New Crown English Series 2
（三省堂）

(2) 研究発表

（研究冊子「語いと英語教育48」）

発表者：五井 沙織
（板橋区立高島第一中学校）
小林 竜也
（千代田区立九段中等教育学校）

- ①「発信語彙リストの活用方法に関する研究」
- ②「部員の授業検討・協議」
- (3) 指導講評・講演
講師：和田 玲 先生
（ウィーン大学英米研究科教育言語学
研究員、長崎大学教育学部助教）
内容：「生徒の発信力を高める指導」

プロジェクトチーム部報告

(部員 飯沼 美千代)

今年度プロジェクトチーム部では、「small talkの指導を通して、話すことの育成と意欲の向上」をテーマに、やり取りの力を育成し、話すことの育成と意欲の向上を目指して活動している。日常的なsmall talkの取組がどのような効果があるかを検証するため、研修を2回実施した。第1回研修会は夏季休業中に行い、PT部員による実践報告と講師によるワークショップの形式で実施した。内容は「生徒が話すための仕掛けを用意し、支援をし、楽しんで話す授業づくり」をテーマに実践例をもとにどのように自分の授業でしていくかを体感するものであった。第2回研修会では研究授業及びPT部員による実践発表を行った。今回は「話すことの指導と評価の工夫～small talkの実践を通して」のテーマに、指導と評価の工夫について共有することができた。

夏季研修会（於：杉並区立阿佐ヶ谷中）

日時：令和7年8月18日（月）

内容：PT部による実践報告

ワークショップ：「話すことの指導と評価の充実～small talkの実践を通して」

講師：文教大学教授 阿野 幸一 先生

研究授業・研修会（於：墨田区立吾嬬第二中）

日時：令和8年2月16日（月）

内容：授業研究「音読指導の充実と書くことの指導と評価の工夫」

テーマ：「話すことの指導と評価の工夫～small talkの実践を通して」

授業者：墨田区立吾嬬第二中学校

伊藤浩和先生 西間木慶子先生
中山敦子先生

実践発表者：鈴木潤先生 村山幸広先生

指導・助言：「生徒が思いを伝え合うために～small talkの実践を通して」

講師：文教大学教授 阿野 幸一 先生

出版部報告

(部長 今本 由美子)

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を担当している。今年度、部会については、活動内容により、集合またはオンライン、集合とオンラインを併用により実施してきた。

現在、「都中英研だより」はデジタルのみでの発行、「中英研会報」については、冊子とデジタルでの発行としている。物価上昇、輸送費高騰等、様々な課題はあるが、「冊子」として発行、お届けすることの意義を考えながら、今後の在り方を模索していきたい。

○「都中英研だより」第79号

(令和7年10月1日発行)

会長あいさつ「都中英研の人材育成を対話と協働によりさらに進める」、また、事業部、調査部、研究部、PT部サマールワークショップの報告、英語学芸大会参加基準、都小外研研修会のお知らせ等を掲載した。

○「令和7年度 中英研会報」第84号

(令和8年3月1日発行予定)

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめ、また、日々の授業実践等に役立つ情報の発信として、「英語教師の役割をupdateする～AIツール活用時代の授業において英語教師に求められること～」、「令和7年度東京都教育庁指導部の取組」、「東京都教育庁グローバル人材育成部の取組」、「東京都教職員研修センターにおける外国語（英語）に関する研修について」、また、英語学芸大会報告、実践研究、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

第64回大都市公立中学校
英語教育研究会連絡協議会
福岡大会報告

(小中連携教育担当 畠山 芽含)

1 開催日時

令和7年10月31日(金)

13:30~16:40

2 開催方法 オンライン

3 研究主題

「英語科教員の授業力向上に向けての取組について～英語教育研究会の活性化を通して～」

4 各都市からの報告

- (1) 研究主題
- (2) 研究計画・活動計画
- (3) 昨年度の成果
- (4) 課題

5 事前アンケート(効果的な取組抜粋)

札幌市

- ①教育委員会主催の研修会参加費無料
- ②指導案検討は会員全員に声掛け

仙台市

- ①公開授業後の協議会やワークショップは対面で行いスムーズな情報共有

さいたま市

- ①市教委研究会外国語専門部代表会議や英語弁論暗唱大会で積極的な情報交換

千葉市

- ①小中連携を目指した小中合同研修
- ②視野を広げる講演会

東京都

- ①指導教諭等による模範実践を共有
- ②都中英研各部それぞれ異なるテーマでワークショップ等を開催
- ③若手教員の教材研究相談・助言・講師による授業実践や工夫の情報提供

川崎市

- ①授業研究会の公開
- ②ワークショップでの提案で授業改善

横浜市

- ①市公開授業研究会での研究協議会で小グループでのディスカッション実施
- ②小中合同での教育課程研究協議会実施

静岡市

- ①「みんなでつくる教科研」を合言葉に市内3区同一日開催の公開授業実施

浜松市

- ①小中連携として研修会で互いの教科書について説明会を実施
- ②個別課題研修として夏季研修で課題別テーマごとにグループを分け研修実施

名古屋市

- ①年間2回の講演会実施
- ②若手教員が気軽に相談できる「授業デザイン相談会」を実施

京都市

- ①校長会主催の授業研修会をすべての教科で実施し全市で学ぶ機会を確保

大阪市

- ①令和7年度より大阪市立中学校教育研究会主催の研修会を新たに実施
- ②小中連携についてアンケート実施

堺市

- ①初任者(1~3年目)研修の実施

神戸市

- ①小中合同研修会
- ②ALTとの共同授業研修会

岡山市

- ①年3回、3校で公開授業研究会を実施

広島市

- ①中高英語助手活用研修でALTと協働
- ②市中研で評価問題を持ち寄り実践交流

北九州市

- ①教育委員会と連携した若手教員へのイングリッシュカフェ実施

福岡市

- ①授業力向上を目的とした研究テーマ
- ②市内全て全学年の単元計画(ツリー図)を作成し実践交流研修会を実施

熊本市

- ①市の授業研究会を4つの学校で実施
- ②熊本県版学力テスト作成を若手も参加

**第75回 全国英語教育研究団体
連合会総会**

**第75回 全国英語教育研究大会
和歌山大会**

「学びのWAをつなぐ英語教育—新しい時代を主体的に生き抜く Lifelong Learners の育成を目指して」

全英連 副会長
兼 中学部会長 難波 浩明
(足立区立加賀中学校)

1 大会の主題等

令和7年11月14日(金)～15日(土)、和歌山県にて、第75回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。「学びのWAをつなぐ英語教育—新しい時代を主体的に生き抜く Lifelong Learners の育成を目指して」を大会テーマに、学びとつながりの中で育まれる、新しい時代に求められる力を涵養すべく、和(調和、和歌山)、輪(連携)、話(対話)を通じた英語教育の在り方を探る。小・中・高を通じた英語教育を、単なる言語スキル習得の枠を超え、主体的に未来を切り拓く Lifelong Learners—「生涯にわたって学び続ける人材」の育成に結びつける新たな視座を提示しつつ、英語教育の進化を共に考える場とする。

2 総会・記念講演

- (1) 期日：令和7年11月14日(金)
- (2) 会場：和歌山県民文化会館ホール
開会の辞、会長挨拶、祝辞、来賓紹介、会務報告、感謝状贈呈、閉会の辞
- (3) 記念講演
講師：加賀田 哲也 氏
(大阪教育大学多文化教育系 教授)
演題：「学びのWAをつなぐ英語教育—「ことば」と「こころ」が離れない授業を目指して」

3 授業発表

- (1) 小学校授業実演(45分) * 動画発表
授業実演者：横矢 晴美 教諭
(和歌山市立岡崎小学校)
授業助言者：直山 木綿子 氏
(関西外国語大学教授)

<内容>

本時は、8時間扱いの7時間目の授業で、憧れの人を紹介するスライドを示しながら、クラスの友だちに、その人の魅力やしたことについて伝えていた。導入では、授業者がアブクド読みをして単語の発音を聞かせるなど、段階的に書かせる活動を工夫していた。聞き手も、あいづちや簡単な質問を行い、双方向で言語活動を行っていた。

(2) 中学校授業実演(50分)

授業実演者：虎伏 泰資 教諭
(みなべ町立南部中学校)
授業助言者：植西 仁美 氏
(和歌山市立紀之川中学校長
前和歌山大学助教授)

<内容>

ディベートの目的や基本的なルールを理解させながら、論題である「中学生に部活動は必要ない」について、自分の立場を選び、理由を考え、話したり、書いたりする授業であった。生徒の発言を肯定的に認める言葉かけを行うなど、安心して学ぶことのきる雰囲気を醸成していた。

(3) 高等学校授業実演(50分) * 動画発表

授業実演者：岩崎 祐矢 教諭
(和歌山県立耐久高等学校)
授業助言者：加賀田 哲也 氏
(大阪教育大学多文化教育系
教授)

<内容>

愛についての定義づけを行うために、導入で、「愛」の本質に触れる内容のクイズを出したり、「When do you feel love?」についてのライティングやインタビュー活動を行ったりして、段階的に表現ができるように工夫していた。また、分からない表現をグループやペアで学び合いながら、学習を進めていた。

4 分科会

- (1) 期日：11月15日(土)
- (2) 会場：和歌山県立向陽中学校・高等学校
分科会数：前半13部会 後半13部会
内訳：小学校 4部会 中学校 8部会
高等学校 14部会

**第49回 関東甲信地区中学校
英語教育研究協議会 神奈川大会報告**

(会長補佐 板垣 繁)

今回の大会は、コロナ後初となる対面による全体会を午前に開催し、午後は4つの分科会場に分かれ、それぞれのテーマに沿った発表、協議を行った。

1 趣旨

これまでの英語教育の実践並びに英語教育の現状を見直し、英語教師自らの資質能力の向上と授業改善の充実を図り、関東甲信地区英語教育の発展に寄与する。

2 主題

未来を創る自律的学習者を育てる英語教育を目指して～コミュニケーションを図る資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント～

3 主題設定の理由

現行学習指導要領（平成29年3月告示）では、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、その過程を通して「学びに向かう力、人間性等」に示す資質・能力を育成することとしている。今後さらにグローバル化する国際社会において豊かな未来を創造していくには、状況に応じた的確な判断と共に、柔軟に課題解決を図る力が必要である。そのためには、学校教育に留まらず、生涯学び続ける姿勢（学びに向かう力）が大切となる。しかし、2022年に実施された「国際学習到達度調査（PISA）」によると、日本の高校生は、自律的に学習することに自信がないという実態が明らかになった。学習に関する意思決定を自らできる自律的学習者の育成は、時代を見据えた上で喫緊の課題であると考え、本主題を設定した。

4 記念講演

演題『学習指導要領の趣旨を踏まえた外国語教育の充実～全ての子供に“未来を切り拓く力”を育むために～』

講演者：文部科学省 初等中等教育局

教育課程課外国語教育推進室教科調査官
国立教育政策研究所

教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官・学力調査官

鹿嶋 成子 氏

5 各分科会の研究テーマ及び公開授業者・発表者・指導助言者

第1分科会（神奈川、長野、群馬）

研究テーマ：教科書を効果的に活用した授業展開の工夫

会場：横浜市立西中学校

公開授業者：横浜市立西中学校

教諭 小松 篤史

指導助言者：拓殖大学 教授 西村 秀之
<県内提案>

提案者：横浜市立港南中学校

教諭 角 雪絵

指導助言者：拓殖大学 教授 西村 秀之
<県外提案>

（長野県）

提案者：麻績村立筑北中学校

教諭 石川 文香

指導助言者：松本市山形村朝日村中学校組
合立鉢盛中学校 教頭 小岩井 高德

（群馬県）

提案者：伊勢崎市立第四中学校

教諭 船津 悠人

指導助言者：伊勢崎市教育委員会

学校教育課 指導主事 田上 優輝恵

第2分科会（神奈川、埼玉、栃木）

研究テーマ：コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す言語活動の工夫

会場：横浜市立霧が丘義務教育学校

公開授業者：横浜市立霧が丘義務教育学校

主幹教諭 榎本 由理子

指導助言者：横浜市教育委員会学校経営

支援課 主任指導主事 兵頭 律子
<県内提案>

提案者：川崎市立東橋中学校
教諭 梅澤 有美子

指導助言者：川崎市総合教育センター
カリキュラムセンター 指導主事 大窪 洋次郎

<県外提案>
(埼玉県)

提案者：さいたま市立本太小学校
教諭 有江 聖

指導助言者：さいたま市教育委員会
主任指導主事 川又 秀雄

(栃木県)
提案者：宇都宮市立陽東中学校

教諭 三浦 由佳
指導助言者：宇都宮市教育委員会

学校教育課 指導主事 栗田 寛之

第3分科会（神奈川、東京、千葉）

研究テーマ：「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化した指導と評価の工夫

会場：横浜市立中川西中学校
公開授業者：横浜市立中川西中学校

教諭 前屋敷 祐一
指導助言者：東京家政大学

教授 太田 洋

<県内提案>

提案者：相模原市立若草中学校
教諭 伊藤 明日美

指導助言者：相模原市教育センター
指導主事 中村 航

<県外提案>
(東京都)

提案者：足立区立第十四中学校
教諭 今井 美菜子

指導助言者：東京都教職員研修センター
研修部教育開発課 指導主事 鈴木 美帆

(千葉県)

提案者：市川市立東国分中学校
教諭 古川 聖和

指導助言者：市川市教育委員会
指導課 主幹 高洲 学

第4分科会（神奈川、山梨、茨城）

研究テーマ：小・中つながりのある授業の
推進

会場：横浜市立西金沢義務教育学校
公開授業者：横浜市立西金沢義務教育学校

教諭 阿部 卓
指導助言者：横浜市教育委員会学校経営

支援課 主任指導主事 櫻井 千寿
<県内提案>

提案者：大和市立大和中学校
教諭 山岡 カレン

指導助言者：大和市教育委員会指導室
指導主事 豊島 美代子

<県外提案>
(山梨県)

提案者：北杜市立須玉中学校
教諭 神山 祥

指導助言者：甲州市立松里中学校
校長 三枝 ゆかり

(茨城県)

提案者：神栖市立神栖第二中学校
教諭 宍戸 奈緒美

指導助言者：鹿行教育事務所
指導主事 仲澤 陽市

千代田区

I. 研究主題

小中交流高め合い授業研究
～自ら考え・発信できる児童・生徒の育成を目指して～

II. 研究の経過

◇7月2日（水）麴町中学校3年

Sunshine3 Program 3 Hot Sport Today
研究主題：「授業で育てる自主性」「授業で育てる社会性」「授業で育てる創造性」

授業者：永原 佳代子 主幹教諭
太田 真里子 教諭
大島 良一 教諭

◇9月17日（水）神田一橋中学校1年

Here We Go! 1 Unit 4 Part 3
研究主題：「ICT活用と「個別最適な学び」の授業における枠組み作りの定着と実践『個別最適な学び』から『協働的な学び』」

授業者：高橋 青依 教諭
渋谷 はるか 講師

講師：葛飾区立常盤中学校長
平岡 栄一 先生（7月/9月）

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（令和6年12月 中央教育審議会諮問）を用い、新学習指導要領の趣旨や指導のポイント及び指導と評価の一体化についてご講義をいただいた。

III. まとめ

本区では、中学校英語科と小学校外国語科共同で研究授業を行い、研修を実施している。発達段階に応じた指導法や有用なタブレット使用方法等について情報共有し、授業実践に活かしている。次年度は、新学習指導要領実施へ向けた学びをさらに深め、指導と評価の一体化について研鑽を深め、小学校・中学校での外国語・英語の学びをより充実したものとしていくための研究に取り組んでいきたい。

（神田一橋中学校主任教諭 田川 香 記）

中央区

I. 研究主題

「インプットした知識を活用してアウトプットにつなげる授業展開の工夫
～授業内容の理解から学力向上を目指して～」

II. 研究の経過

◇4/8（水）

教育会一斉部会
組織・研究主題・活動予定の決定

◇6/24（水）

ALT 紹介・Speaking Test 日程調整

◇9/3（水）

研究授業指導案検討

◇10/8（水）

研究授業
授業者：宇内 祐子 主任教諭
（晴海中学校）

内容：NEW CROWN English Series 3
Lesson 6 “Being Fair”

講師：渋谷区立松濤中学校
主幹教諭 橋本 晋作 先生

◇11/12（水）

講演会
『インプットした知識を活用してアウトプットにつなげる授業展開の工夫』
講師：熊本大学大学院 教育学研究科
准教授 岡崎 伸一 先生

◇1/19（水）14：30～ 研究報告会

◇2/4（水）

研究のまとめ（収録原稿作成）

（晴海中学校主任教諭 弭間 省吾 記）

港

区

I. 研究主題

「英語科における複線型授業のあり方
～ICTの効果的な活用～」

II. 研究の経過

◇4月23日（水）

組織編制、研究計画

会 場：お台場学園港陽中学校

◇6月4日（水）

講 話：「複線型授業や個別最適な学び
とは何か—スウェーデンの学び
を参考にしつつ授業を再考しよ
う」

講 師：高知大学教育研究部人文社会科学系 教育学部門 教授

是永 かな子 先生

会 場：お台場学園港陽中学校

◇9月3日（水）

授業研究「英語科における複線型授業の
あり方～ICTの活用～」

授業者：熊谷 桃子 主任教諭

会 場：白金の丘学園

◇11月5日（水）

港区英語発表会

会 場：赤坂区民センター

◇1月14日（水）

研究のまとめ、次年度引継ぎ

会 場：お台場学園港陽中学校

III. まとめ

複線型授業や個別最適な学びにおける長
所や課題点について活発な意見交換をする
ことができた。

（港南中学校主任教諭 一ノ瀬 麻子 記）

新

宿

区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実践と授
業改善」

①様々な対話活動を通して、「やり取り」
の力を育成する指導

②新しい教科書を使っての効果的な指導

II. 研究の経過

◇5月7日 春季一斉部会

組織作り、研究テーマと活動計画決定

◇7月30日 夏季一斉部会

①各校における新しい教科書の活用方法
の報告

②英語学芸発表会に向けて

◇7月31日 新宿区立中学校英語学芸発表会

◇10月8日 秋季一斉部会

①主体的・対話的で深い学びの実践と授
業改善

②英語学芸発表会の反省及び引継ぎ

◇10月8日 第1回研究授業

授業者：落合第二中学校

松山 建人 教諭

内 容：New Horizon English Course 1
Unit 5

“My Brother in Hawaii”

講 師：明海大学教授

西貝 裕武 先生

◇1月26日 第2回研究授業（詳細未定）

授業者：落合中学校

塩山 琴音 教諭

講 師：文教大学教授

阿野 幸一 先生

（新宿西戸山中学校主任教諭

深山 朋子 記）

文 京 区

I. 研究主題

「ICTを活用した協働学習を通して、ウェルビーイングにつながる指導の在り方」

II. 研究の経過

- ◇5月2日 区中研一斉部会
 - ①研究テーマ、活動方針の決定
 - ②各係の選出 など
- ◇8月7日
夏季ワークショップ自主研修会
 - ①「IT機器を活用した3年生の実践」
丸橋 秀哉 主幹教諭 第九中
 - ②「AI×タブレットで実践！話す、読む力を鍛える」
三浦 陽子 主任教諭 文林中
 - ③「Here We Go！」ラウンドシステムによる実践
進藤 大岳 主幹教諭 第六中
 - ④何が未習で何が既習か？
小中連携「中学校英語入門期」を考える
溪内 明 主任教諭 本郷台中
- ◇11月21日 研究授業
「比較級・最上級」
授業者：高井 由美子 主任教諭 第八中
- ◇全国英語教育研究団体連合会参加
岸澤 康平 主任教諭 第六中
- ◇1月20日 一斉教科部会
 - ①報告：全英連大会・研究授業・夏季自主研修会
 - ②指導法ワークショップ
「教科書本文の指導」
都留文科大学・東京女子大学他講師/
ELEC同友会英語教育学会会長/NHK
ラジオ「中学生の基礎英語1」講師
本多 敏幸 先生

III. まとめ

各教員が日頃実践している取組を共有し、ウェルビーイングにつながる指導の在り方について考察することで、各校の英語活動をより充実させることができた。

(第十中学校主幹教諭 中山 静寿保 記)

台 東 区

I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫と授業の実践」

II. 研究の経過

- ◇4月16日 区中研一斉部会
 - ・組織編成
 - ・研究主題の決定
 - ・年間活動計画
- ◇5月7日 区中研総会
- ◇10月8日 区中研一斉授業
授業者：柏葉中学校
松本真裕美 主任教諭
佐藤 弘美 主任教諭
鴻野 太 教諭
单元名：Lesson 4 Safe Clean Water
講 師：千代田区立九段中等教育学校
主任教諭 黄 俐嘉 先生
- ◇12月3日 小中合同一斉授業
授業者：東泉小学校
藤井 順子 主任教諭
单元名：Here We Go! 6 Unit 6
I want to go to Italy.
講 師：玉川大学・大学院 名誉教授
佐藤 久美子 先生
- ◇令和8年2月4日 区中研部会
 - ・各校の取組の発表
 - ・年間の活動のまとめ

III. まとめ

今年度の研究授業では、小学校の研究授業に中学校も参加し、小中連携について協議を行った。小学校で培った英語を話す力を中学校でも伸ばすとともに、小学校では中学校での学習内容を見据えた活動を意識的に取り入れる大切さについて講師の先生からの助言をいただいた。生徒の英語力向上に向けて、今後も研究を重ねていきたい。

(桜橋中学校主任教諭 深瀬 智子 記)

墨 田 区

I. 研究主題

「Small Talkを通じた表現力の向上」

II. 研究の経過

- ◇ 4月16日 区中研総会・一斉部会
 - ①組織・役員、活動計画等の検討
 - ②授業校・講師・関連事業の確認
- ◇ 6月25日 第1回研究授業
授業者：寺島中学校
根本 和那 教諭
関口 玲 主任教諭
講 師：江戸川区教育委員会
佐藤 みち子 先生
演 題：『やりとり・即興性』を意識した言語活動の充実
- ◇ 8月27日 夏季研修会
講 師：明海大学教授
西貝 裕武 先生
演 題：話すことの指導と評価の充実
～Small Talkの実践～
- ◇ 11月26日 第2回研究授業
授業者：吾嬭第二中学校
西間木 慶子 主任教諭
中山 敦子 主任教諭
伊藤 浩和 主任教諭
テーマ：Small Talkの活動を通じた表現力の向上
- ◇ 12月22日 学習アプリ配信開始
概 要：墨田区教育委員会と連携し、基礎文型や会話表現等を搭載した生徒用学習アプリ「EnglishPractice_for_sumida」を制作し、区内全校の生徒および教員に配信した。

III. 成果と課題

今年度は「Small Talk」を共通テーマとし、各校での実践を通して生徒の即興的な表現力の向上を目指した。また、学習アプリの制作・活用を通じ、個に応じた学習環境の整備と定着を図った。

(墨田中学校主任教諭 久保田 航 記)

江 東 区

I. 研究主題

「3年間の学びを見据えた単元指導と評価計画の作成」

II. 研究の経過

- ◇ 6月5日 区中研一斉部会
・内容 組織作り、年間活動計画
- ◇ 7月8日 教科交流研究の日
北部
・授業者：大島中学校
草野 夏子 教諭
中部
・授業者：第三砂町中学校
小林 美緒 教諭
南部
・授業者：辰巳中学校
鈴木 萌 教諭
- ◇ 9月3日 区中研教科部会
・内容：「教科書を活用した英語の授業へのアプローチ」
- ◇ 10月31日 江東区英語学芸会
・会場：江東区文化センター
・内容：Speech、Others、Playの部
・Speechの部 優勝校の第三砂町中学校の生徒が都大会に出場
- ◇ 12月26日 東京都英語学芸会
・会場：立川・たましんRISURUホール
・Speechの部 第三砂町中学校の生徒が第1位
- ◇ 1月14日 区中研教科部会（研究授業）
・会場：亀戸中学校
・授業者：伊藤 雅人 主幹教諭

(第四砂町中学校主任教諭 福田 毅 記)

品川区

I. 研究主題

「小中連携による英語教育の推進」

II. 研究の経過

◇勉強会

- ・スタートカリキュラムについての実践報告と解説
- ・教科書やデジタルコンテンツの理解

◇講演会

- ・「品川区で取り組んでいるストーリーカリキュラムについて」
講師：青山学院大学名誉教授
アレン 玉井 光江 先生
- ・「学習者用端末でのデジタル教科書の活用」講師：光村図書出版株式会社

◇公開授業

- 授業者：並木 隆浩 教諭
美留町 美希子 様 (JTE)
- 講師：文教大学 国際学部 国際理解学科
教授 阿野 幸一 先生
- 単元：New Horizon 5 レストラン会話
1-4年分科会 実践報告会
講師：千葉大学教育学部教授
本田 勝久 先生

III. まとめ

今年度は1-4、5-7、8-9の分科会ごとに、授業・講演会・勉強会の企画を担当して実施した。中学校では勉強会と講演会を中心に行われ、小中連携におけるリタラシー教育の継続について、戸越台中学校指導教諭 渦古可鳥鳴より実践例の紹介が行われた。

公開授業については、レストランでの会話単元を小学校5年生の授業で公開した。

①児童が発表したくなる雰囲気作り②児童の発話量の確保③中間指導の3点に着目した研究授業となっており、中学校での英語指導につながる会話活動は、系統性・連続性をもって英語教育を行うための大きな気付きを得られた。

(富士見台中学校指導教諭 石田 尋 記)

目黒区

I. 研究主題

「生徒が自分で学び方や伝え方を選ぶ英語授業の工夫～主体的な学びと表現力の育成を目指して～」

II. 研究の経過

- ◇4月23日 組織編成、研究テーマ・計画
- ◇5月14日 教科書やデジタル教材の活用、研究主題に関する授業実践について

◇7月2日

- ・研究授業
授業者：丸山 敬子 主幹教諭
永守 貴子 主幹教諭
単元名：NEW HORIZON 3 Unit 3
「How can we save animals?」

・研究協議、研修

1. ロイロノートの活用

生徒個人の理解度の確認及び相互学習への活用、工夫について

2. 自己調整・自己選択型の学習

自己の理解度に合わせ複数の課題から選択し主体的に学習に取り組む

・指導講評、講演

- 講師：元東京都中学校英語教育研究会
副会長 池田 武男 先生

◇10月8日 目黒区スピーチコンテスト

◇12月10日 研修会

- 東京書籍 河村 拓也 様
教育出版 元池 浩二 様
小林 今日子 様

教科書を使った自己選択学習と主体的な学びに関する具体例や教科書の構造について

◇1月14日 研修会

◇2月4日 発表分科会

◇3月4日 発表全体会

III. まとめ

生徒が自主的に学び、表現力を高めていくためには単元内で自己に合わせた選択ができる活動、他者参照等の活動を取り入れた授業構成や指導の工夫が必要である。

(東山中学校主任教諭 田中 静蘭 記)

大 田 区

I. 研究主題

「ALTを活用したコミュニケーション能力の育成」

II. 研究の経過

◇第1回部会（会場：田園調布中）を4月16日に実施した。

組織編成、年間計画立案、部員名簿作成等は、対面での会議や学校間メールを介して行い、全部員に周知した。

部会後に「新しいNEW CROWNの特徴と効果的な使い方」という演題で、筑波大学附属中学校教員・NEW CROWN著者である中島真紀子先生よりご講演をいただいた。

◇小中連携教育研究授業は、10月8日に、東調布第三小学校2年生で実施した。

（授業者：國田 将 主任教諭
ALT：Kuanya Kuo）

◇連合学芸会（英語の部）（会場：大田文化の森）は、11月11日に実施した。

◇2月4日に貝塚中学校での研究授業及び第2回部会を予定している。

◇BULLETIN -OTA English Today-（紀要）を年間の研究記録として毎年発行していたが、今年度から電子での保存、配布にした。今年度は第35号となる。

III. まとめ

今年度も研究授業、連合学芸会など充実した活動を行うことができた。

今年度から始めた講演会が好評だったので、引き続き計画したい。

今年度の部員数：105名

（雪谷中学校長 柳 歆子 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

『幸せな未来をデザインし、創造する教育の実現』

II. 研究の経過

◇5月7日世田谷区立中学校教育研究会役員会（北沢中学校）

◇6月4日前期教育研究会（芦花中学校）
「今年度の活動について」

◇10月10、16、17、20日国公立立公開授業（筑波大学附属駒場中学校）
授業者：須田 智之 教諭
単元等：「Rice Harvesting」

NEW CROWN English Series 1
Lesson 6 School Life in the USA

◇11月5日後期教育研究会
第36回世田谷区立中学校
英語スピーチコンテスト
（成城ホール）

III.まとめ

研究紀要作成

（芦花中学校主任教諭 関根 貴子 記）

渋谷区

I. 研究主題

「生徒の対話的な言語活動を促す指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月30日（水） 一斉部会
 - ・組織編制
 - ・研究主題、活動計画の検討及び決定
- ◇9月24日（水） 学習指導案検討会
 - ・研究授業学習指導案についての協議
- ◇11月18日（火） 一斉研究授業
授業者：代々木中学校
遠藤 由依 教諭
单元名：NEW HORIZON 2
Unit 5 What design is good for everyone?
講 師：東京外国語大学教授
工藤 洋路 先生
- ◇1月28日（水） 研究発表会

III. 成果と課題

話すこと [やり取り] において、自分が伝えようとする事実や考え、気持ちなどのまとまった内容を伝えた上で、その内容に対する質問に応答するなどして相手とのやり取りを展開することができる力を育成することを目指して取り組んだ。毎回の授業では、生徒間で行うやり取りに加え、教師と生徒との間で行うやり取りを通じて、即興で自分の考えや意見を伝える様々な活動を取り入れてきた。研究授業では、生徒がある程度心地よい感じで英語を話している姿が見られた。一方で、生徒の中には文レベルの発話で苦勞している印象があった。指導の工夫として、教員による言語面でのフィードバックや文レベルでのトレーニングが必要であることが課題となった。

(鉢山中学校教諭 野崎 ゆかり 記)

中野区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫 ～確かな学力を身に付けるためのユニバーサルデザインの視点による授業づくり～」

II. 研究の経過

- ◇研究主題の検討と決定（4月）
- ◇研修会の企画・実施（5～6月）
日時：令和7年6月12日（水）
講師：中野区立中野東中学校
指導教諭 井上 智絵 先生
内容：すべての子どもにとって大きな安心につながる、優しい授業づくりをテーマにユニバーサルデザインの視点による授業づくり、スライドやワークシート、板書のレイアウト等の授業デザインについて
- ◇研究授業の企画・実施（5～12月）
日 時：令和7年11月5日（水）
授業者：高山 博子 主任教諭
单元名：Sunshine English Course
Program 6 The Way to School
対 象：第1学年
講 師：大東文化大学外国語学部
英語学科准教授
淡路 佳昌 先生
- ◇講演会の企画・実施（2月）
日 時：令和8年2月18日（水）
講 師：英語“わくわく授業”研究所
代表 中嶋 洋一様

III. まとめ

「ユニバーサルデザインの視点」について共通認識をもち、特別な支援を必要とする子どもたちを含めたすべての子どもが、誰一人として取り残されることなく授業に参加し、基礎的・基本的な力を身に付けられるよう、授業改善に取り組むことができた。

(第五中学校主幹教諭 工藤 信輝 記)

杉 並 区

I. 研究主題

「学習指導要領に即した指導と評価の一体化を目指して～デジタル教科書・ICTを活用して～」

II. 研究の経過

◇4月16日 杉教研一斉部会

会 場：和田中学校

◇夏季ワークショップ 7月28日

会 場：和泉中学校

講 師：光村図書

中学校英語課編集長

遠山 潤 様

関東第一支社

遠藤 芳春美 様

内 容：「話すこと(発表・やり取り)の力を高める」指導法と評価のあり方」をテーマとした、Here We Go!の紙面教科書とデジタル教科書の活用法

◇杉並区英語学芸会 11月1日

会 場：杉並区久我山会館ホール

内 容：スピーチの部

パフォーマンスの部

◇研究授業及び研究協議 2月4日

授業者：和田中学校

伊藤 悠介 教諭

単元名：Unit 8 Getting Ready for the Party (Here We Go! 1)

講 師：東京都教育庁指導部

義務教育指導課

統括指導主事 早川 裕之 先生

III. まとめ

ワークショップや研究授業を通して、実践的な指導法などの情報を共有し、研究主題について考えを深めた。

(東田中学校主任教諭 森 朝美 記)

豊 島 区

I. 研究主題

「単元を意識した指導と評価の工夫」

II. 研究の過程

◇4月16日 区中研一斉部会

会 場：明豊中学校

・研究主題の決定

・活動計画の検討

◇11月5日 区中研英語部会

会 場：西巣鴨中学校

・研究授業

授業者：諸島 まい 主任教諭

内 容：Here We Go!

English Course 3 (光村図書)

Unit 5 My Dreams for the Future

・研究協議会・講演会

講 師：東京家政大学教授

太田 洋 先生

◇1月14日 区中研英語部会

会 場：駒込中学校

・講演会

講 師：星槎大学特任教授

小泉 仁 先生

内 容：「単元を意識した指導と評価の工夫」

III. まとめ

講演会や研究授業を通して研究主題について考えを深めることができた。今後も情報を共有し、授業に生かしていく。

(駒込中学校教諭 熊木 美誉 記)

北 区

I. 研究主題

英語力の向上を目的とした主体的かつ効果的な学習活動の工夫と実践等をテーマに、各校で研究主題を設定した。

II. 研究の経過

◇4月16日（水）区教育研究会

- ・組織づくり
- ・今年度の活動計画
- ・研究テーマ決め

◇10月31日（金）北区連合学芸会

- ・英語スピーチ（各校代表1名出場）
- ・第1回、第2回運営委員会開催

（6月24日、10月15日）

◇11月12日（水）研究授業

授業者：北区立堀船中学校
木村 真由美 教諭

単元名：NEW HORIZON

English Course 1
Unit 8 Think Globally,
Act Locally

講師：北区外国語教育アドバイザー
重松 靖 先生

◇1月14日（水）実践的ワークショップ

演 題：「豊かな言語活動を可能にする
単元計画を考える-個別最適な
学びと協働的な学びの往還の
具体とは-」

講 師：英語“わくわく授業”研究所
代表 中嶋 洋一 先生

III. まとめ

研究授業では生徒中心の指導法の提案を通じて、安心感と参加意欲を高める授業作りや自己評価の重要性を学ぶことができた。また、実践的ワークショップでは、個別指導と協働的な学びを組み合わせた単元計画の方法を教員が互いに活動を通して学び、各校での言語活動の質の向上にすぐに活用できる有意義な研修となった。

（田端中学校主任教諭 石原 恵梨 記）

荒 川 区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」～新教科書を活用した4技能を高める授業づくり～

II. 研究の経過

◇第2回定例会部会にて

7月9日に行った部会では、教科書編著者である工藤洋路先生を講師としてお迎えし、「新教科書を活用した効果的な授業づくり」についてご講演いただいた。特に教科書で扱っている対話文には自然な表現が取り入れられており、登場人物の気持ちを意識して学習させることが、生徒のより深い学びにつながることを学んだ。こうした工夫により、生徒は状況や目的に応じて表現を選択する力を養うことができる。

◇第3回定例会部会にて

9月10日に第四中学校で行った研究授業では、「Lesson 5 Visiting Australia」を題材に「話すこと [やり取り]」の指導方法について意見交換を行った。生徒が英語を使ったコミュニケーションの技能を身に付けるためには、モデル文の練習と教師とのやり取りを通して学びのポイントを全体で確認した上で、その後の活動につなげることが、生徒の積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に有効であることを学んだ。

III. まとめ

新教科書の特徴を生かした工夫を取り入れることで、実際のコミュニケーションに生かせる力を育むことができると考える。今後の課題としては、こうした指導方法を日々の授業で展開できるよう、指導者一人一人が指導の引き出しを増やしていく必要がある。

（第九中学校教諭 大塚 智薫 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

II. 研究の経過

- ◇ 4月16日（水）一斉部会（板橋一中）
組織作り、研究テーマ決定、役割分担
 - ◇ 7月15日（火）英語部会（西台中）
授業者 松本 朱津 教諭
講 話 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」
講 師 明海大学 教職課程センター
客員教授 石鍋 浩 先生
 - ◇ 8月1日（金）一斉部会
オンラインワークショップ
「外国語教育における子供たちの「学び」とは～小学校との連携を生かした授業づくり～」
講 師 北海道教育庁釧路教育局長
外国語教育アドバイザー
平木 裕 先生
(元文部科学省初等中等教育局視学官、
国立教育政策研究所教育課程調査官)
 - ◇ 11月5日（水）一斉研究授業（板橋三中）
授業者 貴志 那実江 主任教諭
講 話 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～意見・考え・気持ちを伝え合う言語活動の工夫～」
講 師 明海大学教職課程センター・地域学校教育センター
教授 西貝 裕武 先生
 - ◇ 2月12日（木）区中研研究発表会
(板橋三中)
発表校 板橋二中、志村一中、中台中、高島三中
- ### III. その他
- 11月1日（土）英語のつどい（高島平区民館ホール）
・実演とビデオ上映を組み合わせたハイブリッド型の発表形式で実施した。
(高島第一中学校主任教諭 五井 沙織 記)

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。」

II. 研究の経過

- ◇ 5月14日 一斉部会
光が丘第一中学校にて開催
- ◇ 6月25日 英語部会
各ブロックにて研究授業実施
Aブロック（豊玉第二中学校）
授業者：大石 正隆 主任教諭
大野 真優 教諭（少人数授業）
寺田 礼子 主任教諭
対 象：中学2年生
単 元：Unit3 Plans for the Summer Part2
講 師：西村 秀之 様
(拓殖大学外国語学部英米文学科 教授)
Bブロック（光が丘第一中学校）
授業者：國信 佳歩 教諭（少人数授業）
対 象：中学1年生
単 元：World Tour 1
講 師：窪田 香 様
(創価大学教職大学院 准教授)
- Cブロック（谷原中学校）
授業者：下山田 智香子 教諭
庄村 陽子 教諭（少人数授業）
対 象：中学3年生
単 元：Unit 3 Lessons from Hiroshima Part 3
講 師：福井 正仁 様
(玉川大学教師教育リサーチセンター)
- Dブロック（石神井中学校）
授業者：小林 永枝 教諭
対 象：中学2年生
単 元：Unit 3 Plans for the Summer Part 1
講 師：重松 靖 様
(北区教育委員会外国語教育アドバイザー)
- ◇ 7月24日 夏期研修会
(練馬区立開進第二中学校セミナーハウス)
*「教科書の活用」
講 師：太田 洋 様(東京家政大学 教授)
- ◇ 10月4日 第61回英語学会
(練馬区立生涯学習センター)
都大会出場校：石神井西中学校
DESCENDANTS：THE RISE OF RED
(練馬東中学校主任教諭 中尾 真紀 記)

足 立 区

I. 研究主題

「個別最適な学びと協働的な学びの推進による、主体的・対話的で深い学びの実現」

II. 研究の経過

- ◇ 4月16日
一斉部会 組織及び活動計画案提示
- ◇ 6月11日 研修会
「教科書『Here We Go!』の使い方について～教科書編集のねらいや使い方～」
講 師：東京家政大学教授
太田 洋 先生
光村図書出版担当者 様
- ◇ 9月11日
小中合同研修会〈小学校主催〉研究授業
- ◇ 10月 8日
小中合同研修会〈中学校主催〉研究授業
授業者：谷中学校
大塚 千菜 教諭
大越 さや 主任教諭
松尾 洋 主任教諭
単元名：New Horizon English Course 2
Unit 4 “What is important in a homestay?”
講 師：東京家政大学教授
太田 洋 先生
- ◇ 10月23日 連合英語学会
Speechの部 第1位 千寿青葉中学校
- ◇ 1月28日 一斉部会・研修会
「新学習指導要領改訂に向けて・中高連携について」
講 師：文部科学省初等中等教育局
外国語教育推進室 教科調査官
富永 幸 先生
(第四中学校主任教諭 上尾 栄美子 記)

葛 飾 区

I. 研究主題

「英語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」

II. 研究の経過

- ◇ 5月7日 葛中研英語研究部会
組織・研究テーマ・事業計画案提示
- ◇ 7月8日 葛中研英語研究部会研究授業
授業者：葛飾区立四ツ木中学校
細田 敬太郎 教諭
講 師：葛飾区立常盤中学校
校長 平岡 栄一 先生
- ◇ 7月30日(水)～8月1日(金) 2泊3日
葛飾区中学生イングリッシュキャンプ
(於：British Hills)
葛飾区内中学校から85名の生徒が参加
- ◇ 10月15日 葛中研英語研究部会研究授業
授業者：葛飾区立小松中学校
佐藤 華子 教諭
講 師：文教大学国際学部国際理解学科
同大学院国際学研究科
教授 阿野 幸一 先生
講 演：「新しいNEW HORIZONを活用するために」
- ◇ 10月20日 第40回葛飾区立中学校英語
スピーチ&プレイコンテスト (於：高砂
地区センター) ※本年度はスピーチ部門
24名、レシテーションの部4名が参加
- ◇ 2月2日 葛中研英語研究部会研究授業
授業者：葛飾区立亀有中学校
大北 由紀 教諭
白井 萌 教諭
岡宗 直美 主任教諭
- ◇ 3月 役員会
(金町中学校教諭 高山 翔 記)

江戸川区

I. 研究主題

「Speaking活動等を通して主体的に
コミュニケーションを図る
資質・能力の育成」

II. 研究の経過

◇5月7日(水) 区中研一斉研究日
講演
「即興力を育てる北原メソッドと
フォニックス指導」
講師：北原 延晃 様
(元港区立赤坂中学校主任教諭)

◇8月28日(水) 区中研一斉研究日
ワークショップ「ALTとの授業について」
講師：カミラ ハリス 様
(インタラックALT管理責任者)
及び ALTの先生方

◇11月5日(水) 区中研一斉研究日
1.研究授業
授業者：伊東 卓思 主幹教諭
(松江第四中学校)
2.指導講評・講演
講師：半沢 蛭子 先生
(東京理科大学教養教育研究院准教授)

◇江戸川区学力向上プロジェクトとの連携
英語授業力アップ講座
(参加希望者による自主的な研修会)
7月29日(火) 10月9日(木)
2月6日(金)

III. まとめ

ALTとのワークショップや研究授業、講演会と、1年間で様々な内容の研修を実施することができた。指導の工夫改善を通して、生徒を育てる英語学習を考える機会となった。

(松江第一中学校長 瀬戸 完一 記)

八王子市

I. 研究主題

「デジタル教科書(ICT)の効果的な活用」

II. 研究の経過

◇4月16日 打越中学校
今年度テーマ、部会組織、活動計画等検討

◇8月4日 打越中学校
「言語活動の充実に向けて」
～ESAT-Jへの対応を見据えて～
講師 順天堂大学教授
佐藤 ひろみ 先生

◇11月5日 実践発表・研究協議会
1ブロック 打越中学校
発表者 上川 陽子 教諭
講師 順天堂大学教授
佐藤 ひろみ 先生

2ブロック 檜原中学校
発表者 高橋 和也 教諭
講師 東京外国語大学
教授 工藤 洋路 先生

3ブロック 浅川中学校
発表者 川邊 耕太 主任教諭
講師 東京外国語大学
教授 根岸 雅史 先生

4ブロック 由木中学校
発表者 平久 祥恵 主任教諭
講師 都立白鷗高等学校附属中学校
指導教諭 高瀬 ひとみ 先生

III. 成果と課題

ICTには、作成した文章の共有や、音読チェック、ライティングの修正など、様々な活動の可能性がある。実践の中で、生徒が発話することや書くこと、自主学習をする機会を増やすことができた。

課題点として、習熟度に応じた課題設定をすることや、ICTにすべてゆだねるのではなく、最終的なチェックは教員が行う必要があることが挙げられた。

(浅川中学校教諭 佐々木 礼奈 記)

立 川 市

I. 研究主題

「社会の変化に対応し、学び続ける生徒の育成を目指して」

II. 研究の経過

◇5月7日 第1回研究部会

◇8月21日 第2回研究部会
ワークショップ

講 師：文教大学国際学部

教授 阿野 幸一 先生

◇11月5日 第3回研究部会
研究授業・協議

授業者：立川第一中学校

中山 悠平 教諭

単元名：New Horizon English Course 3
Unit 5

講 師：国分寺市立第五中学校

主幹教諭 前川 卓哉 先生

◇2月18日 全体研修会

III. 成果と課題

成果として以下の2点について確認することができた。

今年度から新たに採用された教科用図書について、各単元の活動のねらいについて市内の教員で共有することができた。それにより、各教員が活動の意図を理解して授業に取り組むことができた。

読むことや書くこと、聞くことや話すことを授業内でどのように取り入れていくことが有効なのかということについて学ぶことができた。

今後の課題として、4技能をバランスよく育てるための手立てについてより具体的に考えていく必要がある。

(立川第九中学校主幹教諭 榎 克敏 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「言語活動を通して、主体的・協働的に学び続ける児童・生徒の育成」

II. 研究の経過

◇4月30日 武教研総会・組織編制

◇5月14日 活動計画、研究主題検討

◇6月11日 小学校部会（研究主題検討）

◇7月3日 小学校部会（指導案検討）

◇10月3日 小中合同研究会

◇10月8日 研究授業 I

授業者：山口 幸太 主任教諭

(第一小学校)

対 象：第3学年1組

単 元：“What do you like?”

講 師：白石 裕彦 主任教諭

(大田区立馬込第三小学校)

◇11月12日 小中合同研究会

(事例検討・情報共有)

◇1月14日 研究授業 II

授業者：小暮 裕佳里 教諭(第四中学校)

対 象：第2学年3・4組(少人数クラス)

単 元：New Crown English Series 2

Lesson 7 Gifts from China

Goal Activity

講 師：順天堂大学教授

佐藤 ひろみ 先生

III. まとめ

「言語活動[やり取り]を通してつなぐ小中の学び」をテーマにグループ協議を重ね、小中を通して共通して育てたい「やり取りの力」を共有することができた。「やり取りの必然性」を自ら感じ、伝えたいという思いを喚起させることで、主体的に言語活動に取り組ませるとともに、目標達成の手段としてのやり取りを、効果的かつ計画的に授業に取り入れることで協働的な学びに繋げていけるよう、指導の工夫を行う。

(第二中学校主任教諭 生垣 佳子 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～主体的にコミュニケーションを図るための言語活動の工夫～」

II. 研究の経過

- ◇4月16日
令和7年度三鷹市立小・中学校教育研究会総会（役員、事業計画、予算等決定）
- ◇5月7日
ALT派遣会社による講演・事業体験
講 師：(株)ハートコーポレーション
瀬田 葉子 様
- ◇6月11日
小学校：研究授業指導案検討
中学校：指導と評価方法の検討
- ◇9月3日 研究授業（第三中学校）
授業者：村 貴之 教諭
単元名：Here We Go！
ENGLISH COURSE 1
You can do it！1 友達の新しい一面を見つけよう
- ◇10月1日 研究授業（第二小学校）
授業者：星野 美月 教諭
単元名：1年生外国語活動
What Color? 何色かな？
- ◇1月14日
今年度の総括及び次年度の予定
- ◇2月4日
鷹教研合同研修会

III. まとめ

昨年度に引き続き、発達段階に応じたコミュニケーション能力を育成するために小学校・中学校での連携を強め研究を行った。学習者が主体的にコミュニケーションを行うための環境や場面設定の必要性と重要性を再確認し、次年度への研究においても継続して取り組んでいく。

（第一中学校教諭 田中 恵 記）

青 梅 市

I. 研究主題

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を実現する指導の研究
—ICTを有効に活用した指導の研究—

II. 研究の経過

- ◇第1回研究部会（5月7日）
 - ・主題の設定、共有
 - ・研究計画の作成
 - ・協議等
- ◇第2回研究部会（8月29日）
 - ・講演
「『Here We Go!』を活用した授業づくり」—『個別最適な学び、協働的な学び、ICTの有効活用を意識して』
 - ・講師
東京家政大学教授 太田 洋 先生
 - ・協議、情報交換 等
- ◇第3回研究部会（10月22日）
 - ・研究（検証）授業
「Daily Life Scene 2 注文」
（Here We Go! 1）
 - ・授業者
霞台中学校 矢沢 はるか 主任教諭
 - ・協議、情報交換
 - ・研究のまとめ

III. 成果

- ・教科書著者の講演を通して、指導意図を深く理解することができたとともにICTを有効活用した授業づくりについて、学習活動の高度化や効率化を図ることができた。

IV. 課題

- ・ICTを効果的に活用するためには、教科書のデジタル教材を活用したり、統合、調整したり等の工夫が必要である。

（第七中学校長 田中 明子 記）

府 中 市

I. 研究主題

「デジタル教科書の活用とALTとの連携による主体的な学習態度の育成～自己表現を促す授業デザイン～」

II. 研究の経過

- ◇4月16日 部員総会
自己紹介・研究主題・年間研究計画
- ◇5月14日 ワークショップ
「ALTとの活動導入のためのSmall Talk」
(株) ボーダーリンク 様
- ◇8月6日 TOKYO GLOBAL GATEWAY
GREEN SPRINGS 体験会
- ◇9月10日 ワークショップ
「ALTとの文法導入 Picture Describing」
(株) ボーダーリンク 様
- ◇10月8日 研究授業
授業者：府中第四中学校
鮫島 謙治 教諭
講 師：中野区立中野東中学校
井上 智絵 指導教諭
- ◇11月5日 ワークショップ
「ALTを活用した生徒の表現力を向上させる授業 Story TellingとAIの活用」
(株) ボーダーリンク 様
- ◇1月21日 研究授業
授業者：府中第六中学校
庭山 大佑 主任教諭
講 師：東京家政大学教授
太田 洋 先生
- ◇2月4日 研究発表会
- ◇3月4日 役員引継ぎ

III. まとめ

- ・ワークショップや研究授業、TGG体験会を通じて、学習者が主体的に自己表現できる授業展開について理解を深めた。
- ・デジタル教科書の活用とALTとの連携による授業展開を今後も指導に生かす。
(府中第五中学校教諭 根元 賢哉 記)

昭 島 市

I. 研究主題

「生徒がICTを活用し、自ら進んで学習し、お互いに学び合い、学習するための授業改善」

II. 研究の経過

- ◇4月16日(水) 総会・教科部会
・部長校、研究授業校の確認
・研究主題の決定
- ◇9月6日(土) スピーチコンテスト
・「第13回中学生英語スピーチコンテスト」にてスピーチコンテストを実施
- ◇10月8日(水) 研究授業
内 容：研究授業、協議及び講師による指導講評
授業者：昭島市立清泉中学校
松本 舞 主任教諭
片岡 真由子 教諭
小林 海沙希 教諭
単 元：NEW CROWN English Series 2
Lesson 5 Visiting Australia
講 師：町田市立小中一貫ゆくのき学園
武蔵岡中学校
主任教諭
エマール フランソワ 夏樹 先生
- ◇2月18日(水) 教科部会
・年度の振り返り、まとめ

III. まとめ

- ・研究授業を基に、現在授業で活用しているICTについて協議・情報交換を行った。
- ・「ICTは手段にすぎない」ということを共通理解し、生徒が自ら学習に取り組むためのきっかけになる学習アプリについて、情報共有ができた。
- ・様々な学習アプリに触れることで、ICTを用いた授業づくり・授業改善への意識が高まった。

(拝島中学校主任教諭 齊藤 幸代 記)

調 布 市

I. 研究主題

「相手に配慮しながら主体的にアウトプットを行う授業づくり」

II. 研究の経過

- ◇5月7日（水）第1回一斉部会
内 容：研究主題・研究計画の提案
会 場：調布市立調布中学校
- ◇6月4日（水）第2回一斉部会
内 容：「デジタル教材の活用方法」
 (株)三省堂 内田 悠貴様
会 場：調布市立第七中学校
- ◇10月1日（水）研究授業・小中合同研修
授業者：調布市立北ノ台小学校
 秋山 恵理 主任教諭
会 場：調布市立北ノ台小学校
- ◇11月5日（水）研究授業・小中合同研修
授業者：調布市立神代中学校
 川村 真広 教諭
講 師：都留文科大学・東京女子大学・
 武蔵大学非常勤講師
 本多 敏幸 先生
会 場：調布市立神代中学校
- ◇1月14日（水）第5回一斉部会
講 演：「文法から本文の一連の指導方法について」
講 師：都留文科大学・東京女子大学・
 武蔵大学非常勤講師
 本多 敏幸 先生

III. 成果と課題

成 果：生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況などを踏まえ、聞き手への配慮を意識しながら言語活動を行うことで、生徒が主体的・能動的にアウトプットに取り組むことができた。

課 題：教師が言語活動における目的や場面、状況を共有することが不十分であると、相手意識が欠け、正確に情報を伝えることができない場面があった。伝える方法を工夫できるよう、言語活動の内容の改善を図る必要がある。

(第七中学校主任教諭 内田 章子 記)

町 田 市

I. 研究主題

「改訂教科書に対応した英語教育におけるリーディング指導とパフォーマンステストの時間配分に関する研究—デジタル教科書や生成AIの効果的な利用に向けて」

II. 研究の経過

- ◇4月16日 第1回一斉部会
会 場：町田市立町田第一中学校
内 容：今年度の計画、主題設定
- ◇7月24日 夏季研修会
会 場：町田市立町田第一中学校
講 演：「AI活用時代における中学校での英語の授業の在り方」
講 師：東京外国語大学教授
 工藤 洋路 先生
- ◇10月29日 一斉部会
会 場：町田市立南成瀬中学校
授業者：田村 健二 主任教諭
単 元：Here We Go !
 ENGLISH COURSE 2
 Unit 5 “Guide Dogs”
講 師：東京家政大学教授
 太田 洋 先生
- ◇1月28日 研究発表会
会 場：町田市立町田第二中学校
講 演：「思考ツール(マッピング)を使った指導と実践について」
講 師：元関西外国語大学教授
 (公財)日本英語検定協会派遣講師
 中嶋 洋一 先生

III. まとめ

AIの教育での利用が広がる中でも、生徒の言語力と主体的に学習に取り組む態度を育む授業実践が英語教師の本質的な役割であることは変わらない。今後、本年度の知見を踏まえ、更なる授業改善を目指したい。

(小山中学校教諭 大元 一剛 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「主体性を育む言語活動における指導と評価」

II. 研究の経過

◇評価材料について学校間で情報共有

◇研究授業の実施

授業者：栄藤 辰久 教諭

単 元：Lesson 4 “Hollywood Movies”
NEW CROWN English Series 3

◇教科書を活用した授業アイデアの共有

講 師：三省堂 ニュークラウン編集長
中迫 様

◇研究授業の実施（1月21日に実施予定）

III. まとめ・成果と課題

まとめ

評価材料の共有や研究授業、教科書を活用した授業アイデアの交流を通して、言語活動に必然性をもたせる指導の重要性を確認した。目的・場面・状況を明確に設定することで、生徒が英語を使う意欲を高め、主体的に思考しながら言語活動に取り組む姿が見られることが分かった。

成果と課題

成果として、主体性を育む言語活動における指導と評価の視点を学校間で共有できた点が挙げられる。一方で、分量の多い教科書内容を有効に生かしつつ、言語活動の目的に応じて適切に取捨選択することが、今後の継続的な課題である。

（小金井第二中学校教諭 明石 拓海 記）

小 平 市

I. 研究主題

「デジタルとアナログの効果的な使用」

II. 研究の経過

◇4月23日 教科等研究会総会

会 場：小平第一中学校

内 容：組織づくり、研究主題の設定
研究計画の作成

◇7月30日 夏季研修会

会 場：花小金井南中学校

講 師：株式会社ボーダーリンク
教材開発グループ

小林 優 様

Mark Kelly 様

講 演：デジタルとアナログの効果的な活用について

◇9月10日 研究授業

会 場：小平第二中学校

授業者：宮代 友輝 教諭

対 象：中学2年生

単 元：NEW CROWN English Series 2
Take Action! Talk 2
“話し合い”

講 師：順天堂大学国際教養学部
教職課程研究室客員教授
佐藤 ひろみ 先生

III. まとめ

今年度の第1回研究部会では、2つのテーマ案（デジタルとアナログの効果的な使用、即興性の育成）を基に研究課題を検討した。特に、改訂で顕著になった即興性を育成するための方法や手段について、学びを深めながら、デジタルとアナログの効果的な活用を研究することとした。

生成AIを活用した研究授業により、ICTを上手く取り入れた今後の授業の在り方を考えるよい契機となった。

（花小金井南中学校主任教諭

大野 菜々恵 記）

日 野 市

I. 研究主題

「改訂教科書を活用した基礎基本の指導方法～探究的で深い学びを作るゼロ段階～」

II. 研究の経過

- ◇ 6月18日 ビデオ授業研究（第三中）
授業者：森沢 俊彦 教諭（第三中）
Unit 2 Basketball Tournament
Here We Go!
ENGLISH COURSE 2
- ◇ 8月20日 夏季集中研修（第三中）
講 師：拓殖大学教授
西村 秀之 先生
- ◇ 9月3日 小中合同授業研究（三沢中）
授業者：水野 誠 教諭（三沢中）
You Can Do It! 1 友達の新しい一面を見つけよう Here We Go! ENGLISH COURSE 1
講 師：文京区立本郷台中学校
主任教諭 溪内 明 先生
- ◇ 10月1日 小中合同授業研究（滝合小）
授業者：富田 有作 主任教諭（滝合小）
Let's go to the zoo. (道案内)
講 師：相模女子大学小学部校長
小泉 清裕 先生
- ◇ 11月26日 光村図書出版(株)によるデジタル教科書の使用法研修およびWorld Classroom実践報告会（第四中）
講 師：大橋 義拓 様（光村図書）
実践報告者：阿部 明美（第二中）教諭
渡邊 愛沙美（七生中）主任教諭

III. 成果と課題

改訂教科書やデジタル教材を生かし発話機会を確保できたことは成果である。一方で習熟度差や受け身な生徒への支援が課題であり、ICT活用を含め協働と個別の学びを最適化する授業づくりが今後求められる。

（日野第三中学校教諭 森沢 俊彦 記）

東 村 山 市

I. 研究主題

「言語活動の充実～コミュニケーション能力を高めるために～」

II. 研究の経過

- ◇ 4月16日 統一部会
- ◇ 5月7日 定期総会
- ◇ 6月4日 光村図書ワークショップ
講 師：光村図書出版(株)
編集部 遠藤様・大橋様・中原様
- ◇ 7月2日 夏季研修会に向けて協議会
- ◇ 8月25日 講演会
「英語授業へのアプローチ」
講 師：東京外国語大学教授
工藤 洋路 先生
- ◇ 9月3日 講義
「言語活動充実を図るためのALTの活用」
講 師：(株)ハートコーポレーション
瀬田 洋子 様
- ◇ 10月1日 研究授業
授業者：百田 果 主任教諭
谷澤 里恵子 主任教諭
津野地 純一 主任教諭
講 師：十文字学園女子大学教授
林 宣之 先生
- ◇ 1月14日 定期テストワークショップ
- ◇ 2月4日 研究発表会
- ◇ 3月6日 令和7年度のまとめと新年度に向けて

III. まとめ

8月25日の講演会や10月1日の研究授業を中心に、生徒のコミュニケーション能力を高める指導の在り方について研究を深め、実践的な研究協議を行うことができた。

（第三中学校主任教諭 津野地 純一 記）

国分寺市

I. 研究主題

「話すこと（やりとり）の力を伸ばすための協働的な学びを充実させる教師の働きかけ～効果的な生徒同士のピアフィードバックを目指して～」

II. 研究の経過

◇4月16日 一斉部会

- ・研究主題決定
- ・年間活動計画の確認
- ・夏季研修会の日程、内容の確認

◇8月5日

講師：青山学院大学教授

長沼 君主 先生

テーマ：やり取りの力のCan-Do評価を活かしたフィードバックの進め方

◇10月8日 研究授業

授業者：第二中学校

野中 将人 主任教諭

題材名：NEW CROWN English Series 3
Take Action Talk 4 話し合い

◇1月14日 一斉部会

- ・研究紀要最終確定
- ・次年度の研究テーマ原案検討

III. まとめ

教師がモデルを示したり、生徒へ望ましいフィードバックをしたり、より良いフィードバックの観点を伝えたりすることで、生徒同士のピアフィードバックの質を向上させることができた。また、短期間の指導では効果が薄く、ピアフィードバックの定着には時間がかかることが明らかになり、早い段階から継続的な指導が必要であることが明らかになった。

(第二中学校主任教諭 野中 将人 記)

国立市

I. 研究主題

「外国語・外国語活動における個別最適な学びや協働的な学びに向けた指導の工夫」

II. 研究の経過

◇第1回 研究授業 6月25日（水）

会場：国立第三中学校

授業者：佐藤 楓 教諭

単元：Here We Go! 1 Unit 3

Enjoy the Summer

講師：玉川大学・大学院名誉教授

佐藤 久美子 先生

◇第2回 研究授業 10月15日（水）

会場：国立第五小学校

授業者：藤田 恭生 教諭

単元：ONE WORLD Smiles 5

Lesson 5 I can run fast.

講師：玉川大学・大学院名誉教授

佐藤 久美子 先生

III. まとめ

小中合同研修会として2回の研究授業を実施した。「深く考える生徒の育成」を目指して、それぞれの授業において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場面を設け、指導が効果的であったかどうかを協議した。「個別最適な学び」に関しては「学習の個別化」「指導の個別化」の観点からより良い指導に関して意見交換することができた。「協働的な学び」に関しては、個々の習熟度の違いはあっても「互いのやり取りの良さ」を共有したり「みんなで考え」たりする活動を通して学びが深まることが期待される。

(国立第二中学校主任教諭 大澤 陽子 記)

福 生 市

I. 研究主題

「確かな学力を身に付け、主体的に学び続ける児童・生徒の育成～義務教育9年間で育む基礎・基本の確実な習得とその活用を通して～」

II. 研究の経過

◇4月23日（水）

役員選出
部会取組方向・取組内容決定
年間計画作成

◇6月13日（金）

研究授業指導案検討

◇7月9日（水）

研究授業Ⅰ：福生市立福生第二小学校
授業者：紺野 日奈子 教諭
内 容：「好きな色について伝え合う」
講 師：法政大学准教授
小堀 真知子 先生

◇8月29日（金）

研究授業指導案検討

◇10月1日（水）

研究授業Ⅰ：福生市立福生第一中学校
授業者：川崎 円花 教諭
内 容：「海外の学校について大まかに読み取り理解する」
講 師：熊本大学准教授
岡崎 伸一 先生

III. 成果と課題

CEFR視点の導入と音声インプットの重要性を共有できた一方、授業設計への具体化と系統的活用が課題である。

（第三中学校主任教諭 岩尾 京子 記）

狛 江 市

I. 研究主題

「主体的・対話的な学習と評価の工夫」

II. 研究の経過

◇5月7日 一斉部会

研究主題の検討と決定

◇9月24日 一斉研究授業（小中合同）

授業者：狛江第三中学校
鈴木 潤 教諭
単 元：Here We Go！
ENGLISH COURSE 3
Unit 4
AI Technology and Language
講 師：東京学芸大学教育学部准教授
白倉 美里 先生

◇2月18日 研究報告会

III. まとめ

Small Talk や Picture Describing 等の即興で伝え合う言語活動を通し、コミュニケーション能力を高める授業づくりへの意識が高まった。

（狛江第三中学校主任教諭 中野 陽介 記）

東 大 和 市

I. 研究主題

「教科書を活用した効果的な授業づくりの研究～技能統合を意識した言語活動を通して～」

II. 研究の経過

◇本年度から教科書が改訂され、言語活動の充実や思考力・判断力・表現力の育成が一層重視されるようになった。そこで、外国語部会では、教科書を効果的に活用し、技能統合を意識した言語活動を通して、生徒が主体的に外国語を学び、実際に使う力を伸ばす授業作りの在り方を探ることを目的とし、この研究主題を設定した。教科書を最大限に生かしながら、生徒が達成感や自己効力感をもてるような授業の実践を目指し、研究を進めることとした。

◇研究の内容

- (1) 5月7日(水) 第1回部会
研究主題の検討、活動計画の作成
- (2) 7月28日(月) 第2回夏季研修
講 演 「教科書を活用した英語の授業へのアプローチ」
講 師 東京外国語大学教授
工藤 洋路 先生
- (3) 10月1日(水) 第3回部会
研究授業 Lesson 1 Part 3 My Hero
授業者 第三中学校 井上 純子 教諭
- (4) 11月5日(水) 第4回部会
市内英語科教員での研究協議、まとめ

III. まとめ

夏季の研修では、教科書著作者としての立場から、生徒の即興的スピーキング力を高めるための工夫や視点について具体的にお話いただき、日々の授業作りに生かせる多くの示唆を得ることができた。研究授業では、新教科書に収録された題材をもとに即興的スピーキング力の育成をねらいとした授業を実践した。

(第三中学校教諭 野村 美喜 記)

清 瀬 市

I. 研究主題

「デジタルを活用した授業力の向上」

II. 研究の経過

- ◇4月23日 教育研究会
会 場：清瀬第二中学校
内 容：研究主題の設定、年間計画の作成、情報交換
- ◇6月25日 教育研究会
会 場：清瀬中学校
内 容：デジタル教科書を活用した授業づくり、および生徒のデジタル教科書の活用についての講義
講 師：(株)東京書籍 東京支社
課長代理 池田 篤史 様

◇10月22日 教育研究会

会 場：清瀬中学校
内 容：デジタルを活用した各学校の授業実践報告(5校)

◇2月4日 研究報告

III. 成果と課題

各学校でのデジタルを活用した授業の取り組みを共有するため、学習管理システム(各学校間共有フォルダ)を活用した。授業で活用したワークシートや成果物等を共有することで具体的な活用場面や指導方法を把握することができた。研究会後のアンケート結果からも、授業の幅が広がったなど、肯定的な意見が多く見られた。

一方で、学習者用のデジタル教科書の使用率は依然として低く、今後はどの部分で生徒に委ねる活動を設定するかについて、研究会を通して継続的に研究していく必要がある。

(清瀬中学校主任教諭 福田 真由 記)

東久留米市

I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育成するための指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇ 5月7日 市授業改善研修
(全体会・分化会)
今年度の研究について(研究主題決定)
- ◇ 6月18日 市授業改善研修
(分科会)
指導案検討、各校の事例研究・意見交流
- ◇ 7月9日 市授業改善研修(研究授業)
会場：大門中学校 2年生
単元：Project1 スピーチ「My Dream」
授業者：尾崎 愛純 教諭
木村 梓 主任教諭
神田 智也 教諭
講師：調布市立第八中学校指導教諭
加藤 真由子 先生
- ◇ 9月10日 市授業改善研修(研究授業)
会場：南中学校 1年生
単元：Lesson 5 Part 1
「ブラウン先生の家族」
授業者：藤城 麻結 教諭
講師：調布市立第八中学校指導教諭
加藤 真由子 先生
- ◇ 2月4日 市授業改善研究(研究報告)

III. まとめ

2回の研究授業を通して、生徒が主体的に学ぶための授業実践が行われるとともに、明日から使える授業づくりのアイデアを共有することができた。

(東中学校主任教諭 稲毛田 佑花 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「知識・技能の定着から思考力・判断力・表現力を高めるための方法の研究」

II. 研究の経過

- ◇ 4月16日 中教研第1回部会
・自己紹介
・研究主題設定
・組織編成
・年間計画
- ◇ 10月29日 中教研第2回部会
・会場：小中一貫校大南学園第四中学校
・講義・演習：「知識及び技能の定着から思考力・判断力・表現力を高めるための方法」
講師：東京都教職員研究センター
教育開発課指導主事
鈴木 美帆 先生
- ◇ 2月4日 中教研第3回部会
・会場：小中一貫校大南学園第四中学校
・ワークショップ：令和7年度中学校英語科デジタル教科書の効果的な運用について
講師：光村図書出版(株)編集部

III. まとめ

「生徒にとってより良い授業を行うために、教員自身の英語教育に関する知識を向上させるとともに、授業力向上すること」を狙いとして研修を行った。特にALTとデジタル教科書の活用能力を高めることで、生徒が主体的に英語学習に取り組むことができる環境作りを推進する。

(第四中学校教諭 小野寺 亜莉香 記)

多 摩 市

I. 研究主題

「話すことの力を伸ばすための指導方法の工夫とその共有」

II. 研究の経過

◇5月活動内容

- ①活動方針の確認
- ②新デジタル教科書に関する説明
(光村図書)

◇6月活動内容

- ①講話
講 師：鶴牧中学校校長
森田 剛 先生
「ESAT-Jの結果の活用について」

- ②各学校の指導方法の共有
「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための指導について」

◇11月活動内容

ワークショップ
(株) ボーダーリンク
鹿川 雅美 様
グレゴリー・アーロン・ロチ 様
「生徒の英語によるパフォーマンス向上に向けたALTの有効的な活用法」

III. まとめ

◇まとめ

5月の研究では教科書の改訂に伴って刷新されたデジタル教科書について理解を深めた。また、6月と11月の研究では講話・情報共有・ワークショップを通して「生徒の英語によるパフォーマンス向上に有効的な指導法」について学んだ。今年度の研究成果は、即時に授業やテスト作成に活用できる実用的なものであった。

(聖ヶ丘中学校主任教諭 平田 美和 記)

稲 城 市

I. 研究主題

「学習意欲を高める指導と評価の工夫」

II. 研究の経過

◇5月9日

教科書の活用についての情報交換
講 師：(株)三省堂 営業部
東京支社 澤田 将 様

◇9月10日

Lesson 3 I went to the beach.
(三省堂 CROWN Jr.6)
授業者：稲城第四小学校
宮本 知瑛 主任教諭
講 師：玉川大学・大学院名誉教授
佐藤 久美子 先生

◇10月8日

New Crown English Series 2 (三省堂)
Lesson 6 “Friends from Singapore”
Part 3
授業者：稲城第三中学校
蓮見 輝 教諭
講 師：順天堂大学 国際教養学部
教職課程センター
教職課程研究室
客員教授 佐藤 ひろみ 先生

◇11月12日

- ①授業の中で使えるアクティビティを
ALTとともに実践してみる
- ②ALTとの情報交換

III. まとめ

- ・児童の英語レベルが大変高く、他教科の学習を取り入れたCLIL学習を自然と行っていた。
- ・生徒が興味をもちやすい話題で意欲的に学習に取り組めた。

(稲城第一中学校主任教諭 北条 仁信 記)

羽 村 市

I. 研究主題

「小中接続を意識した、話すことの力を高める指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月16日

研究主題・研究授業者決定、羽村市の外国語教育について共有

◇7月2日

研究授業（羽村第三中学校 1年生）

授業者 野島 伸夫 主任教諭
梅本 かおる 教諭
濱谷 雪花 教諭

Daily Life 2 注文 Here We Go! 1

講 師 羽村第一中学校副校長
網野 千恵子 先生

◇10月8日

研究授業（栄小学校 4年生）

授業者 櫻井 祐子 教諭
Unit 7 お店で買い物をしよう
Let's Try! 2

講 師 東京学芸大学教授
粕谷 恭子 先生

◇1月14日

研究授業（武蔵野小学校 6年生）

授業者 佐藤 雅美 指導教諭
Unit 6 I want to go to Italy.
Here We Go! 6

講 師 羽村第一中学校副校長
網野 千恵子 先生

※上記のほかに、指導案検討（6月、8月、12月）、研修報告（8月）、今年度の研究のまとめ（2月）として部会を開催

（羽村第一中学校主任教諭

樋口 はる菜 記）

あ き る 野 市

I. 研究主題

『基礎を固め、アウトプットへ』

～目的・場面・状況に応じて、生徒が主体的に考え判断し、表現する力を育む授業づくり～

II. 研究の経過

◇4月23日（水）市中教研一斉部会

会 場：東中学校

活動内容：1 三役決定

2 今年度の研究主題決定

3 一斉授業研究会の予定

◇6月4日（水）市中教研英語部会

会 場：東中学校

授 業 者：田村 溪 主任教諭

授業内容：CROWN Words & Sounds 1
『何匹見える？』

講 師：国分寺市立第十小学校

講師 相沢 秀和 先生

◇10月8日（水）小中合同研究会

会 場：秋多中学校

授 業 者：中野 明子 主任教諭

高崎 夏帆 教諭

柿崎 願 教諭

授業内容：CROWN Les.6 現在進行形

講 師：青梅市立第二中学校副校長

戸田 礼子 先生

◇1月21日（水）市中教研英語部会

会 場：西中学校

授 業 者：市原 芽生 主任教諭

授業内容：BLUE SKY Unit 7 比較級

講 師：東京都教職員研修センター

指導主事 鈴木 美帆 先生

III. 成果と課題

英語部会で情報を共有し、研究主題を深めた。生徒が主体的に英語で表現する場面を増やすことができた。即興で返答できる力を付けることが課題である。

（秋多中学校主幹教諭 和久利 幸子 記）

西 東 京 市

I. 研究主題

「デジタルを活用したこれからの学びの実現～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて～」

II. 研究の経過

◇5月 第1回英語部会

- ・研究テーマの決定
- ・年間活動内容の決定

◇11月 第2回英語部会

- ・研究授業および研究協議会
授業者：青嵐中学校
福島 美記子 主任教諭
- ・講演会講師：高千穂大学助教
宮崎 太樹 先生

III. まとめ／成果と課題／その他 等

近年タブレットPCの導入により、多くの学習用アプリケーションが授業で利用されている。今年の部会では、教科書の改訂の時期と重なったこともあり、デジタル教科書の有効な活用法やデジタル教材についての情報交換が主な活動となった。

研究授業では、「音読アプリQulmee（クルミー）」を利用した音読練習が行われており、有料サービスを導入するメリットや特色ある英語教育について考える機会となった。講演会では、最新の英語学習の常識や音読練習の正しい手順、活用できるアプリの紹介などについて理解を深めた。

有料学習アプリの活用は、生徒の興味関心を引き学習意欲を高める一方で、「教育予算が限られた地域では有料サービスの導入が困難」「徐々に興味が薄れる生徒も多く、十分に活用されない場合がある」という課題もある。積極的に新たなデジタル教材を活用するためには、年単位で計画的に準備を進める必要がある。各校の環境に合わせて、積極的に検討を進めていきたい。

(柳沢中学校主幹教諭 本多 康二 記)

西 多 摩 郡

I. 研究主題

【「めあて・振り返り」を重点化した指導と評価の一体化を目指す】

II. 研究の経過

◇5月7日（水）一斉部会

- 会 場：平井中学校
- 内 容：本年度の研究主題の決定
役員選出

◇10月29日（水）一斉教科部会

- 会 場：檜原中学校
- 内 容：研究授業 協議会
- 授業者：檜原中学校
瀬沼 祐子 主任教諭
- 講 師：檜原中学校校長
中村 祐子 先生

◇2月4日（水）全体研修会

- 会 場：平井中学校
- 内 容：各教科研究報告会

III. 成果と課題

成果

小規模校だからこそ、指導者と学習者が密に直接つながり、英語に触れることができる50分だった。発表を聞くことによって、聞く側も興味をもって聞くことができ学ぶことができた。英語の知識だけではなく、幅広い分野の知識を得ることができたことが成果である。

課題

「考えを伝える」ことが大きな目標のため、文法エラーがあり正確な英文を作れないレポートもあった。内容を伝えることを重視するのか、正確な英語を作成することを目標にするのかが大きな課題である。

(大久野中学校主幹教諭 荒川 隆博 記)

大 島 町

I. 研究主題

「英語科指導法の改善と工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月16日 研究協議会
会 場：第一中学校
活動内容：令和7年度活動計画の作成
- ◇5月21日 研究授業
会 場：第三中学校
授 業 者：師岡 利光 主任教諭
活動内容：表現力を高める指導の工夫について
研究資料の共有、実践報告
- ◇10月15日 研究授業
会 場：第二中学校
授 業 者：新垣 智也 教諭
活動内容：反転学習を取り入れた授業展開について
研究資料の共有、実践報告
- ◇1月14日 研究授業
会 場：第一中学校
授 業 者：安木 美帆 教諭
石井 輝 主幹教諭
活動内容：主体的な指導で深い学びを導く「目当て」「導入」について
個別最適な学びに関わる具体的な取組について
研究資料の共有、実践報告

III. 成果と課題

各教員が自身の授業改善を目指し、それぞれのテーマに向けた手立てを研究し、実践しながら指導法について考えを深めることができた。また、情報を共有することで、指導法についての知識が深まり授業改善に役立てることができた。

引き続き、それぞれのテーマに向けた取り組みを実践し、成果と課題をあげながら、指導法についての研究を進め、生徒の英語力向上に繋がるよう取り組む。

(第二中学校教諭 新垣 智也 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を活用できる
児童・生徒の育成～言語活動の工夫～」

II. 研究の経過

- ◇5月7日(水) 第1回部会
研究主題、活動計画、組織づくり、研究授業担当地区決め、講師招聘検討
- ◇7月10日(木) 第2回部会
①研究授業
会 場：大賀郷小学校
対 象：第6学年
授業者：千葉 歩 主任教諭
②協議
- ◇11月12日(水) 第3回部会
①研究授業
会 場：三原中学校
対 象：第1学年
授業者：田中 一成 主任教諭
②協議、講演
「小・中学校英語教育における言語活動と教師の役割～育成を目指す資質・能力の明確化～」
講 師：愛知県立大学教授
池田 周 先生
- ◇1月14日(水) 第4回部会
①研究授業
会 場：富士中学校
対 象：第1学年
授業者：北沢 祐貴 主任教諭
②協議

III. 成果

研究を通じ、言語活動の意味と、教員の果たすべき役割について理解を深め、それぞれの学校の実態に合わせて英語力向上に向けた取組を行うことができた。

(三原中学校主任教諭 田中 一成 記)

令和7年度
中英研事業報告

- 1 6月10日 役員会
 - ・役員組織等の確認
 - ・年間事業計画の検討
 - ・中英研定期総会に向けて 他
- 2 6月26日 定期総会
於：葛飾区立常盤中学校
 - ・令和6年度事業報告・決算報告
 - ・令和6年度会計監査報告
 - ・新役員の承認
 - ・7年度行動目標の承認
 - ・7年度事業計画・予算の承認記念講演：東京都におけるグローバル人材育成への取組について 他
講師：教育庁グローバル人材育成部 国際教育推進担当課長 宮崎 智 様
主任指導主事 関谷 さやか 様
教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 早川 裕之 様
- 3 7月15日 役員会
 - ・令和9年度関ブロ東京大会について
 - ・英語学芸大会（オンライン開催）の運営について 他
- 4 7月29日、8月5日 研究部
夏季ワークショップ
29日於：杉並区立泉南中学校
5日於：千代田区立九段中等教育学校
- 5 8月1日 事業部
夏季ワークショップ
於：都立豊多摩高等学校
- 6 8月18日 プロジェクトチーム部
夏季ワークショップ
於：杉並区立阿佐ヶ谷中学校
- 7 8月19日 調査部
夏季ワークショップ
於：都立桜修館中等教育学校
- 8 9月15日 出版部
「都中英研だより」第79号 発行
- 9 10月1日～11月7日 事業部
第78回東京都中学校英語学芸大会（オンライン開催の部）
- 10 10月31日 オンライン
第64回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会福岡大会
- 11 11月8日
第49回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会神奈川大会
- 12 11月12日 役員会
 - ・令和9年度関ブロ東京大会について
 - ・英語学芸大会（集合開催）の運営について 他
- 13 12月26日 事業部
第78回東京都中学校英語学芸大会（集合開催の部）
於：たましんRISURUホール
- 14 1月28日から
令和7年度東京都教職員研修センター教育課題研究発表会開始
- 15 2月16日 プロジェクトチーム部
研究授業・冬季研修会
於：墨田区立吾嬬第二中学校
- 16 2月20日 研究部
公開授業・研究発表会
於：江東区立第三砂町中学校
- 17 2月 役員会
 - ・令和7年度の活動のまとめ
 - ・令和8年度事業計画について 他
- 18 3月1日 出版部
「中英研会報」第84号 発行

(文責 会長補佐 板垣 繁)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第2条 本会の事務所は会長指定の経理部長在籍校の所在地に置く。
第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目的とする。
第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4. 各種英語教育団体との連絡
5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
2. 副会長若干名
3. 部長各部ごと1名
4. 副部長各部ごと若干名
5. 会計監査2～3名
6. 幹事各区、市ごとに1名
第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会

毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

2. 役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

3. 幹事会

役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

4. 部 会

[総務部] 庶務・会計・渉外及び他部に属さない事項の処理

[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催

[出版部] 中英研だより・会報などの発行

[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

※改定 第5条2、3及び第11条4は平成17年5月19日より実施する。

※第2条及び第16条は平成30年5月10日より実施する。

令和7年度 東京都中学校英語教育研究会名簿

役名	氏名	所属校
会長	平岡 栄一	葛飾区立常盤中学校
会長補佐事務取扱	板垣 繁	葛飾区立上平井中学校
副会長	難波 浩明	足立区立加賀中学校
〃	今本 由美子	立川市立立川第九中学校
〃	佐藤 順一	墨田区立吾嬬第二中学校
〃	島村 雄次郎	立川市立第七小学校
〃	佐々木 昭央	足立区立入谷南中学校
〃	大森 博	八王子市立櫛田中学校
〃	稲葉 高広	府中市立府中第三中学校
総務担当役員	板垣 繁	葛飾区立上平井中学校
総務部長	宮本 猛司	足立区立第一中学校
総務副部長	市川 拓治	荒川区立第五中学校
経理部長	難波 浩明	足立区立加賀中学校
経理部長補佐	赤田 洋一	江東区立第二砂町中学校
部員	星 正行	葛飾区立新宿中学校
〃	池田 美咲	葛飾区立新宿中学校
〃	平入 聡	江東区立第二南砂中学校
〃	高山 翔	葛飾区立金町中学校
調査部担当副会長	大森 博	八王子市立櫛田中学校
調査部長	荒川 高広	東京都立桜修館中等教育学校
副部長	星 雄介	八王子市立館小中学校
〃	大木田 陽子	足立区立第十中学校
〃	加藤 真由子	調布市立第八中学校
〃	高瀬 ひとみ	東京都立白鷗高等学校・附属中学校
〃	永井 剛	武蔵野市立第一中学校
〃	梶野 真弓	中野区立中野東中学校
部員	相澤 雄介	東大和市立第一中学校
〃	新船 美佳	中野区立緑野中学校
〃	飯島 美樹	江東区立深川第二中学校
〃	石田 千尋	品川区立富士見台中学校
〃	遠藤 康子	練馬区立貫井中学校
〃	大澤 陽子	国立市立国立第二中学校
〃	畔柳 健一	東京都立小石川中等教育学校
〃	黄 俐嘉	千代田区立九段中等教育学校
〃	小山 寛孝	町田市立南中学校

役名	氏名	所属校
部員	佐藤航	東大和市立第五中学校
〃	白井靖子	江東区立深川第八中学校
〃	柴野泰行	江東区立亀戸中学校
〃	高栖菜々子	八王子市立第二中学校
〃	丹生幸宣	西東京市立田無第四中学校
〃	中村大樹	練馬区立石神井西中学校
〃	成瀬未緒	大田区立雪谷中学校
〃	幡野洋子	日野市立大坂上中学校
〃	花井友香	江東区立亀戸中学校
〃	樋口はる菜	羽村市立羽村第一中学校
〃	藤本真弓美	足立区立六月中学校
〃	本田大輔	北区立飛鳥中学校
〃	松村祐輔	江戸川区立松江第五中学校
〃	松本将	足立区立江南中学校
〃	松本緑	葛飾区立大道中学校
〃	丸山敬子	目黒区立目黒西中学校
〃	持田朗生	八王子市立第六中学校
〃	柳澤和恵	西東京市立田無第二中学校
〃	吉田恵	東京都立白鷗高等学校・附属中学校
〃	吉原脩平	西東京市立田無第一中学校
〃	渡邊愛沙美	日野市立七生中学校
事業部長	稲葉高広	府中市立府中第三中学校
副部長	島村雄次郎	立川市立第七小学校
〃	小山千景	江東区立深川第一中学校
〃	畠山芽含	足立区立鹿浜未来小学校
〃	赤田洋一	江東区立第二砂町中学校
〃	前川卓哉	国分寺市立第五中学校
幹事・副部長	鈴木悠平	多摩市立聖ヶ丘中学校
副部長	大屋剛	練馬区立旭丘中学校
〃	亀田洋斉	東京都立豊多摩高等学校
〃	黄俐嘉	千代田区立九段中等教育学校
〃	遠藤貴裕	小平市立上水中学校
部員	川越智子	北区立飛鳥中学校
〃	小川史哲	八王子市立別所中学校
〃	田島大介	葛飾区立奥戸中学校
〃	舛谷明沙季	町田市立鶴川中学校

役名	氏名	所属校
部員	等々力 正 伸	葛飾区立常盤中学校
〃	佐藤 紀代美	葛飾区立常盤中学校
〃	遠藤 康子	練馬区立貫井中学校
〃	松本 花 鈴	東京都立杉並高等学校
〃	陳 汐	杉並区立大宮中学校
〃	鈴木 亜紀子	江戸川区立瑞江第二中学校
〃	谷口 了太	中央区立晴海西中学校
〃	松本 舞	杉並区立天沼中学校
〃	諏方 昌 樹	府中市立府中第三中学校
研究部担当役員・幹事	渡邊 映 二	大田区立大森第一中学校
研究部長	橋本 晋 作	渋谷区立松濤中学校
副部長	高杉 達 也	国立筑波大学附属中学校
〃	森沢 俊 彦	日野市立日野第三中学校
〃	多田 翔	江東区立第三砂町中学校
部員	松野 麻里恵	港区立三田中学校
〃	大島 良 一	千代田区立麴町中学校
〃	福島 恵 子	清瀬市立清瀬第三中学校
〃	一ノ瀬 麻 子	港区立港南中学校
〃	岡 大 佑	東京都立小石川中等教育学校
〃	長谷川 眞 司	小平市立小平第三中学校
〃	五井 沙 織	板橋区立高島第一中学校
〃	小澤 美沙姫	杉並区立泉南中学校
〃	瀧本 廣 樹	東京都立太田桜台高等学校
〃	竹元 智 子	バルセロナ日本人学校
〃	小林 竜 也	千代田区立九段中等教育学校
〃	熊田 昌 子	大田区立蒲田中学校
〃	藤野 康 明	調布市立第四中学校
〃	今井 美菜子	足立区立第十四中学校
〃	泉原 花菜子	多摩市立和田中学校
〃	柴田 結 佳	日野市立平山中学校
〃	前田 宏 美	文京学院大学
担当副会長 兼出版部長	今本 由美子	立川市立第九中学校
副部長	溝口 千 里	板橋区立志村第五中学校
〃	兼子 容 子	葛飾区立四ツ木中学校
幹事・副部長	鈴木 訓 文	江戸川区立小岩第四中学校
副部長	當麻 忠 幸	西東京市立明保中学校

役名	氏名	所属校
部員	相澤史彦	小平市立小平第二中学校
幹事・部員	五木田修	足立区立第九中学校
部員	中村哲	板橋区立西台中学校
〃	入江裕美子	東久留米市立下里中学校
〃	梅田一行	練馬区立大泉第二中学校
〃	椿恭子	目黒区立第一中学校
〃	福田貴音	豊島区立西池袋中学校
〃	鈴木咲子	清瀬市立清瀬第三中学校
〃	柳絵未	東京都立両国高校附属中学校
〃	辻賢哲	八丈町立大賀郷中学校
〃	深山朋子	新宿区立新宿西戸山中学校
〃	祖母井千秋	江東区立大島西中学校
〃	浅田紗織	青梅市立西中学校
〃	和田圭史	多摩市立落合中学校
担当副会長兼PT部長	佐藤順一	墨田区立吾嬬第二中学校
副部長	佐藤善明	西東京市立ひばりが丘中学校
幹事・部員	堀恭子	江東区立大島中学校
部員	原田博子	文京区立第十中学校
〃	上尾栄美子	足立区立第四中学校
〃	角田幸彦	足立区立蒲原中学校
〃	渡邊英哲	町田市立つくし野中学校
〃	飯沼美千代	西東京市立田無第三中学校
〃	田中佳奈	にしみたか学園三鷹市立第二中学校
〃	本田耕大	杉並区立阿佐ヶ谷中学校
〃	伊勢涼	葛飾区立双葉中学校
〃	渡邊良亮	町田市立鶴川第二中学校
〃	村山幸広	江戸川区立二之江中学校
〃	生垣佳子	武蔵野市立第二中学校
〃	小林順子	墨田区立吾嬬立花中学校
〃	鈴木潤	狛江市立狛江第三中学校
小中連携	島村雄次郎	立川市立第七小学校
〃	畠山芽含	足立区立鹿浜未来小学校
〃	今西佑	にしみたか学園三鷹市立第二小学校
幹事・研究部	浅井剛	北区立十条富士見中学校
会計監査	三輪政継	足立区立谷中中学校
〃	杉山晶恵	板橋区立上板橋第三中学校

あ と が き

ここに、令和7年度「中英研会報」第84号をお届けいたします。

本誌の発行に際しましては、群馬大学 津久井 貴之 先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに、心から御礼申し上げます。

また「地区活動状況」ページの作成にあたりましては、各地区幹事の先生方には、ご多用の中、原稿の提出にご協力いただきありがとうございました。

現在、秋に発行しております「中英研だより」は、デジタル版のみとしております。各地区幹事の皆さまには、地区内での周知、配布等でご協力をいただき、ありがとうございました。「中英研会報」については、各校1冊ではありますが、引き続き、冊子でお届けをさせていただきます。都中英研HPから、過去の会報も含めご覧いただけますので、そちらもどうぞご活用ください。本誌が都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てばと願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたりご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 今本 由美子)

都中英研 HP・Facebook の URL と QR コード

都中英研 HP では、各部の活動や研修会等のお知らせがご覧いただけます。本誌「都中英研会報」の閲覧も可能です。また、Facebook では、利用者間相互のコミュニケーションも可能です。ぜひご活用ください。

<http://www.chueiken-tokyo.org/>

<https://www.facebook.com/chueiken.tokyo/>



都中英研 HP



Facebook

※Facebookはメタプラットフォーム社の登録商標です。

都中英研会報 第84号

令和8年3月1日印刷
令和8年3月1日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 平岡 栄一

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都葛飾区立常盤中学校
東京都葛飾区金町2-11-1
TEL03-3607-1122

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-6-5
TEL(03) 5741-3146